2023

OSAKA SANGYO UNIVERSITY

HAND BOOK

工学部
電気電子情報工学科
(電子情報通信工学科)

学籍番号　　名前

このハンドブックは、修学に関する諸規程を簡潔にまとめたマニュアルです。学則・修学規程等の基幹規程は、教務課ホームページ(https://www.osaka-sandai.ac.jp/life/ins/)で閲覧することができます。

なお、この冊子は卒業するまで利用することになりますので、大切に取り扱ってください。

CONTENTS

Chapter 01

教務事項についての注意等…… 3

Chapter 02　23L　入学生

カリキュラム、履修についての注意等……35

Chapter 03　21L　編入生

カリキュラム、履修についての注意等……69

【Web版冊子】

学生便覧	本学の規程を記したものです。 ①大阪産業大学学則 ②大阪産業大学学部通則 ③大阪産業大学学位規程 ④大阪産業大学各学部修学規程
Webシラバス （授業計画）	講義（授業）の計画や、内容の概要を記したものです。
※閲覧方法	大阪産業大学トップページ⇒在学生の方⇒教務課

Chapter 01

大学における入学から卒業まで …… 3
教務課案内…… 4
各種　届出・願出 …… 5
学生証と学籍番号…… 6
通学・学割 …… 8
各種証明書…… 9
ポータルシステム（Portal-OSU） …… 10
産大モバイル…… 11
情報科学センター …… 12
保護者ポータル…… 12
学期と授業時間…… 13
履修申請…… 13
単位を修得するための学修時間 …… 16
授業（休講・補講・欠席　等） …… 17
身体科学科目について…… 19
定期試験…… 20
追試験…… 22
成績…… 23
GPA制度と修学指導・退学勧告 …… 25
成績表の見方…… 26
授業料（等）の納入について …… 28
学籍異動（休学・退学・除籍　等） …… 29
転科・学部変更について …… 31

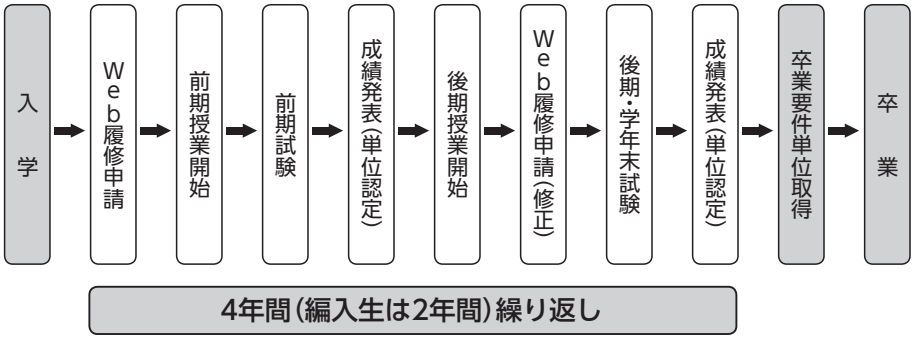
大学における入学から卒業まで

●一年間の流れ（学年暦概略）

※詳細月日は「学年暦」または「学生ポータルシステム」でご確認ください。

４月上旬	新入生・新編入生Web履修申請 前期授業開始
４月下旬	履修申請修正期間
５月中旬	履修登録確認表発行
７月下旬	前期授業終了 前期試験実施（～８月上旬） 追試験受付（～８月上旬）
８月上旬	夏期休業開始（～９月中旬）
８月下旬	追試験実施（申込み者で可否判定が可の者）
９月上旬	９月期卒業予定者成績発表
９月中旬	在学生前期成績発表
９月下旬	後期授業開始 在学生後期履修申請修正期間 ９月期学位授与式（９月期卒業式）
10月中旬	履修登録確認表発行
12月下旬	年内授業最終、冬期休業開始（～翌年１月上旬）
１月上旬	後期授業再開
１月下旬	後期授業終了 後期・学年末試験実施（～２月上旬） 追試験受付（～２月上旬）
２月中旬	追試験実施（申込み者で可否判定が可の者）
２月下旬	卒業予定者成績発表（第１次）
３月上旬	卒業予定者成績発表（第２次）
３月中旬	学位授与式（卒業式） 在学生後期・学年末成績発表
３月下旬	新年度用在学生時間割等配布、ガイダンス、Web履修申請

●入学から卒業までの流れ



このハンドブックは、卒業するまで大切にご利用下さい。
入学年度のみの配付となります。

教務課案内

履修、時間割、授業などについての質問、相談を受け付けています。

場　所	本館（11号館）1階（中央キャンパス）
受付時間	平　日　9:00～17:00 土曜日　9:00～12:30 ※夏期休暇中は10:00～16:00（土曜日はお休みです） ※日曜・祝日（授業実施日を除く）、夏期の一斉休業日、および冬期はお休みです。
連絡先	大阪産業大学　教務部　教務課 所在地　〒574－8530 大阪府大東市中垣内3－1－1 電　話　072－875－3001（代表） E-mail　kyoumu-ml@cnt.osaka-sandai.ac.jp
業務内容	各種申込・届出：休学、退学、再入学、転科・学部変更試験 学籍に関する届け出 履歴変更に関する届け出（住所、氏名、連絡先の変更等） 授業料：授業料（延納、猶予） 履修・時間割・授業：履修申請、授業、授業の欠席、休講、補講、教室変更、シラバス 試験・成績：定期試験の実施、追試験の実施、成績発表 各種証明書発行：成績、卒業見込、在学証明書　等

各種　届出・願出

■学籍に関すること

種別	備　　考	窓　　口	詳細ページ
学生証再発行	窓口にて随時発行します。	教務課	6-7
住所異動届　※	ポータルシステムで変更できます。		
氏名等変更届　※	住民票または戸籍謄本が必要です。		
休学願　※	詳細については窓口へ問い合わせてください。		29-31
退学願　※			
復学願			
再入学願			

※奨学生の方は、学生生活課にも必ず連絡をしてください。

■通学・学割に関すること

種別	備　　考	窓　　口	詳細ページ
実習用通学証明書	実習、卒業研究等で学外に通学する場合に使用します。(担当教員の申請用依頼文書が必要)	教務課	–
学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)	パピルスメイト(証明書自動発行機)にて発行しています。		8

■授業料に関すること

種別	備　　考	窓　　口	詳細ページ
授業料(等)延納願	詳細については窓口へ問い合わせてください。	教務課	28-29
授業料(等)納入猶予願			
除籍取消願			
授業料(等)納入および除籍猶予願			

■授業に関すること

種別	備　　考	窓　　口	詳細ページ
欠席届(学校認定活動用)	教職関連の欠席	教職教育センター	–
	課外活動に関する欠席	学生生活課	
欠席届(一般用)	傷病、親族の冠婚葬祭などによる欠席	教務課	17-18

注)欠席届の提出により成績や出欠への配慮がされるかどうかは各科目担当教員の判断となります。
※公共交通機関遅延・運休に伴う遅刻・欠席については、当該交通機関発行の「遅延証明書(web画面の提示を含む)」を遅刻・欠席した科目の担当教員に提示してください。

■試験に関すること

種別	備　　考	窓　　口	詳細ページ
試験用臨時学生証	試験期間中のみ発行できます。	教務課	21
追試験受験願	受付期間内に手続きしてください。		22

■単位認定に関すること

種別	備　　考	窓　　口	詳細ページ
既修得単位の認定	受付期間内に手続きしてください。	教務課	18

学生証と学籍番号

学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。他人に貸与あるいは譲渡することはできません。
本学で行う定期試験の際には、受験票となりますので、忘れた場合は受験できません。また、教職員から提示を求められた時は、いつでも提示できるように常に携帯し、紛失・破損等のないよう取扱いには十分注意してください。
学生証の記載事項に変更があった場合は、直ちに教務課に届け出て訂正を受けなければなりません。

（学生証・表面）

学籍番号

学籍番号は入学時に決定します。学籍番号は、入学した学科（学部）に在籍する限り変わることはありません。
在学（在籍）期間はもとより、卒業後もそのまま残る固有の番号です。
学内における事務処理は、すべてこの学籍番号によって行われますので、正確に覚えましょう。

学籍番号は６桁の数字とアルファベットで表示します。

（例）　23（入学年度）　B（学科コード）　001（個人番号）

アルファベットは、学部・学科を表し、コードは下記のとおりです。

学　　部	学　　科	学科コード
国際学部	国際学科	P
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	T
経営学部	経営学科	B
	商学科	C
経済学部	学科配属をしない１・２年次 （３年次より下記の学科配属を行います）	E
	経済学科・国際経済学科	E
デザイン工学部	情報システム学科	H
	建築・環境デザイン学科	M
	環境理工学科	V
工学部	機械工学科	F
	交通機械工学科	G
	都市創造工学科	K
	電気電子情報工学科（2023～） （編入生は「電子情報通信工学科」）	L

学生証が必要なとき	◎試験を受けるとき　◎授業で出席確認を行うとき　◎履修相談をするとき ◎図書館を利用するとき　◎通学定期を購入するとき ◎各種証明書の発行申請（パピルスメイト（証明書自動発行機））をするとき
有効期限	・入学後４年間（編入生は２年間）です。 ・５回生以上に在籍する学生は、毎年度末に学生証の更新が必要になります。 ２月中旬以降に教務課で更新の申し込みをしてください。３月末に旧学生証と引き換えます。なお、旧学生証を紛失している場合は有料(1,000円が必要)です。
学生証の再発行 （紛失・破損）	学生証を紛失・破損した場合は、教務課に届け出て再発行手続きを行ってください。 再発行は有料（1,000円が必要）です。 学生証を粉失した場合は、まず学生生活課で落とし物を確認し、見つからなければ、直ちに警察に届け出てください。
学生証の返還	以下の場合は、学生証を速やかに教務課へ返還してください。 １. 卒業、退学、除籍により学籍を離れたとき。 ２. 学生証の再交付を受けた後に旧学生証が見つかったとき。
氏名の変更	本人および保護者の氏名を変更の場合は、速やかに「氏名変更届」と住民票または戸籍謄本を併せて教務課まで届け出てください。
住所等の変更	本人および保護者（保証人等）の携帯電話番号、自宅電話番号、住所はポータルシステムから変更できます。
学生証裏シールの更新	当該年度の在籍を証明する大切な証明書です。裏シールは通学定期購入の有無にかかわらず、全員年度ごとに更新が必要です。 当該年度のシールを貼付していない学生証では、通学定期も購入できません。 新年度の裏シールは、毎年３月下旬から教務課で交付しますので、忘れずに更新してください。 （学生証・裏面） 2023 年度　学籍番号　氏名 在籍確認票　現住所 通学区間　～　間　～　間 通学定期乗車券控　発行年月日　適用期間　発行駅　記事 カ月 カ月 カ月 カ月 カ月 大阪産業大学

通学・学割

通学定期・学割証は正しく使いましょう。
※次の行為は、不正乗車として摘発されます。
・自分の定期券・学割証等を友人等に貸したとき
・有効期限切れの定期券・学割証を使用したとき
・記入事項（日付など）を書きかえた時
・自宅および大学の最寄駅以外の区間で購入し使用したとき
※不正乗車を行なった場合、当該交通機関より多額の運賃が請求されます。また、本学のすべての学生が通学定期券を購入できなくなる恐れがあります。購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。

通学定期	通学定期購入の際は、学生証の裏面にある通学区間（路線別）を記入し、教務課で承認印を受けてから、通学証明書として使用することができます。各交通機関の購入窓口に学生証を提示して購入してください。（交通機関によっては、別途通学証明書が必要となる場合があります。各交通機関に確認し、必要な場合は、教務課で承認印の押印を受けてください。） 誤った申請内容で不正乗車を行なった場合、当該交通機関より多額の運賃が請求されます。また、本学のすべての学生が通学定期券を購入できなくなる恐れがあります。購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。
通学区間	通学区間の証明は、現住所（学生証に記載されている住所）の最寄駅から、大学の最寄駅までの最短距離に限ります。 ※購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。 なお、通学以外の目的（アルバイト等）のために通学証明することはできません。また、通学区間の変更や通学定期乗車券控の記入欄がなくなった場合は、教務課で裏面シールの追加発行と承認印を受けてください。
通学区間の変更	住所変更等で通学区間および路線に変更があった場合は、教務課に申し出て、承認印を受けてください。 ※購入可能な区間等に疑問がある場合は、必ずご自身で、当該交通機関の定期券発売窓口へ確認してください。
学校学生生徒旅客運賃割引証・使用上の注意	学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）とは、片道乗車区間の距離が営業キロで100kmを超える区間を乗車する際には片道乗車券が、600kmを超える場合には往復割引乗車券が２割引となるものです。（JRのみ） ・学割証の有効期間は発行の日から３ヵ月です。 ・パピルスメイト（証明書自動発行機）で即日交付することができます。 学割証を不正に使用した場合には、使用者は３倍の運賃を追徴され、以後の発行を停止されることがあります。また、本学の学割制度そのものを失い、他の学生に迷惑をかけることにもなりかねませんので、十分に注意してください。

各種証明書

証明書は、パピルスメイト（証明書自動発行機）で発行するものと、教務課窓口で発行するものがあります。

パピルスメイト（証明書自動発行機）から発行可能な証明書等				
成績証明書	和文	300円	成績表　注）年間２通まで	無料
	英文	1,000円		
卒業見込証明書　※（1）		200円	履修登録確認表　注）年間２通まで	無料
成績・卒業見込証明書		500円	学校学生生徒旅客運賃割引証（学割証）注）P８参照	無料
在学証明書	和文	200円	健康診断書 （当該年度、健康診断受診者に限る）	200円
	英文	1,000円		
試験用臨時学生証		500円	初期パスワード通知書	200円

※（1）卒業見込証明書：当該年度に卒業が可能であることを証明するもので、就職活動等に必要です。

〔注意事項〕

1．試験用臨時学生証は、使用後、教務課まで必ず返却してください。有効期限は発行当日限りです。
2．間違いや余分に発行・購入した証明書等の返金は一切できません。
3．パピルスメイトに関する質問等は教務課または近くの窓口までお申し出ください。
4．パピルスメイトのパスワードは、大学へ届けている保証人（保護者等）の自宅電話番号下4桁です。

次の条件に該当する場合のみ、４月１日から発行できます。

①３月末日において、３年以上在学（編入生は１年以上在学）し、既に卒業要件単位数を充足している。
②３月末日において、３年以上在学（編入生は１年以上在学）し、新年度に向けて、卒業要件単位数を充足できる履修申請（クラス登録含む）が問題なく完了している。

注）履修申請修正期間中において、卒業要件単位数を充足できる履修申請修正を行った場合、翌日から発行が可能になります。

【パピルスメイト設置場所および稼働時間】

中央キャンパス： 本館（11号館）１階ホール	月曜日～金曜日	9：00～17：00
	土曜日	9：00～12：30
東キャンパス： クリスタルテラス１階	月曜日～金曜日	9：00～17：00
	土曜日	9：00～12：30
梅田サテライトキャンパス （大阪駅前第３ビル19階）	月曜日～金曜日	9：00～19：00
	土曜日	9：00～17：00

注）夏期・冬期休暇中・春期は稼働時間を変更します。（掲示、ポータルシステム等でお知らせします。）

パピルスメイト
（証明書自動発行機）

教務課窓口で発行する証明書等			
成績証明書（英文）	1,000円	在籍（期間）証明書※1	200円
		卒業証明書	200円
卒業証明書（英文）	1,000円	調査書（大学院受験用）	500円
在学（籍・籍期間）証明書（英文）	1,000円	調査書（学内推薦）	無料
		通学証明書（学生証裏シール）	無料
単位修得見込証明書	300円		

※1休学中の証明は、在籍証明書となります。
※2卒業生は、教務課窓口または郵送で証明書の申込を受け付けます。詳細は本学公式Webページをご確認ください。

ポータルシステム(Portal-OSU)

修学に関する情報をまとめ、学生生活を支援するための総合案内システムです。
履修申請、シラバス照会、個人に応じたお知らせなど、様々な機能を使用することができます。

【重要】「Web履修申請ガイドブック」を入手してください。(配付：教務課)

〔履修申請…受講したい講義(授業)科目を学年(学期)の初めに申請すること〕

主な機能

①お知らせ　教員および教務課、学生生活課などからの各種お知らせ

②時間割　履修している講義(授業)に関する情報
(休講、補講、教室・教員変更、講義連絡など)

③教務システム　Webシラバス、Web履修申請などの入り口
(クラス登録、履修申請、履修登録確認表、成績表ダウンロードなど)

④定期試験時間割　実施日の１週間前から掲載

⑤WebClass(教育支援システム)

履修している講義(授業)教員との連絡、教材のダウンロード、課題の提出などの機能があります。
・ポータルシステム、大学Webサイト(情報科学センター)からもログイン可能
(＊)**ログイン方法**は、下記ポータルシステムと共通

⑥メール通知設定　スマートフォンなどに、ポータルシステム上の新着通知を、
配信設定する機能(本学発行のGmailアドレスが最初から登録済み)
メールアドレスは３つまで登録することが可能
・配信先状況が『本登録』になれば、受信することができます。
・ドメイン指定解除してください。【osaka-sandai.ac.jp】を設定してください。

ログイン

大阪産業大学Webサイト (https://www.osaka-sandai.ac.jp)

在学生の皆様へTOP → 大阪産業大学/ポータルシステム Portal-OSU → →ログイン画面へ

(＊) **ログイン方法**
【ユーザID】s + 学籍番号(半角小文字)(例：99A999→ s99a999)
【パスワード】パスワード通知書(ハガキ)に記載

産大モバイル

学生生活を支援するためのスマートフォンアプリです。
保護者の方は、ゲストモードでご利用いただけます。

主な機能

①時間割	履修している講義(授業)に関する情報 (休講、補講、教室・教員変更、講義連絡など) 時限をタップして、メモを入力することが可能
②出席システム	出席情報の送信 (P16を参照)
③OSU MAP	キャンパスマップの検索 (トイレ、食堂、売店、コピー機、ATMなど)
④時刻表	シャトルバス、近鉄バス(新石切駅前)の時刻表
⑤PC演習室 利用状況	講義(授業)、自由利用(開放)のPC演習室(13部屋：約900台)に関する情報 0701演習室は、いつでも自由利用(開放) (PC…パソコン〔Personal Computer〕)

ログイン

大阪産業大学Webサイト (https://www.osaka-sandai.ac.jp)

情報科学センター → スマホアプリ → 産大モバイルサポートサイト

Google Play、App Storeからダウンロード可能

Google Play で手に入れよう　App Store からダウンロード

(＊)**ログイン方法**は、左記ポータルシステムと共通
注意)マニュアルをご確認の上、ご利用ください。

Wi-Fi(無線LAN)

大学内ほとんどのエリアで、無線LANを利用することができます。

接続方法：右記QRコードを参照
(＊)**ログイン方法**は、左記ポータルシステムと共通

[LEONETWiFi-1x]：設定が完了している場合、次回以降は自動的に無線LANに接続されます。

情報科学センター案内

情報処理教育を推進し、教育研究一般をICTで支援する部署です。
ICT：情報通信技術〔Information and Communication Technology〕
場所：本館（11号館）5階（中央キャンパス）

Microsoft Office 製品無償利用

在籍中は、Office365を経由してMicrosoft Officeを無償で利用することができます。
(Windows/Mac PC・タブレット・スマートフォン複数台に、インストール可能)

保護者ポータル

インターネットを通じて、在学生の保護者の方へ情報提供を行います。
主な機能は以下の通りです。

お知らせ、個人伝言

大阪産業大学および後援会から最新の話題や情報等を提供する掲示板です。

時間割

履修している時間割を閲覧することができます。

イベント出欠登録

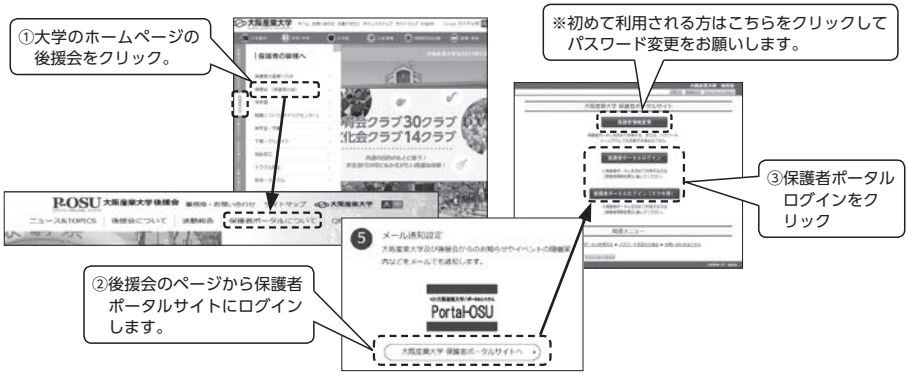
後援会が実施する地区教育懇談会、定期総会などの申し込みをすることができます。

成績表ダウンロード

成績表をダウンロードすることができます。なお、成績登録期間中はダウンロードできません。
前期成績発表日から1月中旬まで、後期成績発表日から7月中旬までにダウンロードしてください。

メール通知設定

大阪産業大学および後援会からのお知らせやイベントの開催案内をメールで通知します。



学期と授業時間

試験時間は授業時間と異なるので注意してください。(授業時間中に行われる試験は除く)

学期

前期と後期の２期に分かれています。

前期	後期
４月１日～９月20日	９月21日～３月31日

これに応じて前期開講科目、前期試験、後期開講科目、通年開講科目、後期(学年末)試験などがあります。

授業時間

時限	時間
１時限	９:00～10:30
２時限	10:40～12:10
３時限	12:50～14:20
４時限	14:30～16:00
５時限	16:10～17:40
６時限	17:50～19:20

※各時限は90分授業(＝１コマ)

※授業は１時限～６時限、月～土曜日まであります。

履修申請

当該年度に単位を修得しようとする授業科目を申し込むことです。
履修登録は各自の学修計画に基づき、Web履修申請システムにて４月(在学生は３月)に、当該年度に必要となる科目を全て登録します。なお、前期は４月下旬、後期は９月下旬にそれぞれ修正期間を設けていますので、既決登録科目およびクラス登録科目を除く科目の修正が可能です。

所定の期間内に履修申請を行わなかったり、間違った履修申請を行うと、授業に出て試験を受けても、単位は修得できません。
履修申請は、パソコンを利用して行います。操作(申請)方法は『Web履修申請ガイドブック』に掲載されています。
申請システムを利用するためにはIDとパスワードが必要です。パソコン関係の授業で使用するIDとパスワードと同じです。また、パソコンを所有していない方のために申請期間中は、学内のパソコン演習室を開放します。

※詳細はポータルシステム Portal-OSU Web履修申請支援メニューより、『Web履修申請ガイドブック』をご覧ください。

※履修と修得について
「履修」とは、単位を修得するために、教育課程に定められた授業科目を登録し学ぶことです。
「修得」とは、授業科目を学んだ結果、合格の評価を受け単位認定されることです。

■履修申請手順

①必要な情報（モノ）をそろえる

履修申請をする前に、下の１）～５）の資料をそろえてください。
新入生は４月上旬、在学生は３月下旬です。

1）カリキュラム表　ハンドブック（この冊子に掲載されています）

2）講義時間割　（ポータルシステム Portal-OSU Web履修申請支援メニューに掲載されています）

3）Webシラバス

シラバスとは、講義（授業）の計画や、講義内容（概要）を記したものです。
どんな講義が開講されているか、講義（授業）の内容や成績評価基準等も掲載されているので次の検索方法で確認しましょう。

【Webシラバス（授業計画書）検索方法】

4）成績表

修得した科目や単位、卒業に必要な科目や単位を確認するために必要です。

5）『Web履修申請ガイドブック』

Web履修申請の申請スケジュール、操作マニュアル等が掲載されています。

②履修計画を立てる

①でそろえた必要な情報を基に、『Web履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」も確認し、履修計画を実際に、「履修申請下書き用紙」に記入していきます。

【履修計画における注意点】

①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス（授業計画書）」を読んでください。
②各時限帯に開講されている授業科目の中から、自分が学びたい科目を選び、各自で履修申請してください。学生一人一人の時間割の内容は、同じ学部学科であっても違ったものになります。
③卒業要件単位数を充足することに重点をおいて時間割を組んでください。
④学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの（既決履修講義）、抽選により履修者を決定するもの、プレイスメントテストの結果により履修指定がされているものなど、さまざまなタイプがあります。講義時間割の備考欄などに記載されている履修の条件をよく確認してください。
⑤既に単位認定を受けた科目を再度履修することはできません。
⑥各ガイダンスには必ず参加してください。

③履修申請の手続きを行う

1）クラス登録科目応募

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果当選した場合に限り履修できます。なお、当選した講義（クラス）は履修を取り消すことができません。詳細は『Web履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

重要 クラス登録応募について

履修人数を制限している科目（講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印のある科目）の受講を希望する場合は、クラス登録期間に応募してください。
クラス登録応募は、Webで「受付→抽選、履修クラスの決定→結果発表」という手順で行います。ただし、科目によっては、応募者多数の場合、受講できない（抽選にはずれる）ことがあります。
詳細は『Web履修申請ガイドブック』の「クラス登録」を参照してください。

■クラス登録タイプについて

Ⅰ	登録保証型 （講義時間割●印科目）	科目と曜日時限を指定して応募します。クラス（教員）は指定できません。応募すれば必ず当選します。
Ⅱ	曜日時限指定抽選型 （講義時間割○印科目）	科目と曜日時限を指定して応募します。クラス（教員）は指定できません。希望の曜日時限すべてが定員を超えた場合は、はずれることがあります。（曜日時限に希望順位をつけられます。）
Ⅲ	クラス指定抽選型 （講義時間割◎印科目）	科目と曜日時限、クラス（教員名）を指定して応募します。希望のクラスすべてが定員を超えた場合は、はずれることがあります。（クラスに希望順位をつけられます。）

抽選結果、当選クラス（教員名）につきましては、本申請までにWeb上で発表します。
クラス登録科目につきましては、抽選・登録の結果、決定したクラスを原則取り消すことはできません。

2）本申請

履修計画（下書きした時間割）に基づいて、Web履修申請システムで講義を申請してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。（時間割は学生ごとに異なります。）事前にクラス登録の抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内ならば何度でも申請内容を変更することができます。申請が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。

3）修正

申請した講義を修正（追加、削除）することができます。ただし、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取り消しできません。修正が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。

履修登録確認表	Web履修申請期間終了後に、履修確定内容を確認するためのものです。 （5月中旬、10月中旬発行） 履修登録確認表にて、申請した科目と相違がないかを必ず確認してください。 記載のない科目を受講し試験を受けても単位は認定されません。 ≪「履修登録確認表」はポータルシステム Portal-OSU の教務システム（履修・シラバス）にアクセスし、入手・印刷してください。 またはパピルスメイトでも年２回無料で発行することができます。≫
教科書販売について	前期・通年科目は毎年3月下旬から4月中旬にかけて、後期科目は9月中旬から10月上旬にかけて教科書を販売します。 購入方法等の詳細は、別途配布・配信される「教科書販売のご案内」および、以下の本学公式Webページを確認してください。 ※MyKiTS（Web申込み）から購入した教科書は必ず受取りをしてください。 トップ＞キャンパスライフ＞教務課＞Web履修申請支援メニュー＞教科書販売

単位を修得するための学修時間

大学における授業の学修量を「単位」と表し、履修登録した授業に出席し、試験（筆記、レポート、実技等）に合格することで単位が与えられます。これを積み重ね、必要な単位を満たすことで卒業ができます。
単位の算定は、大学設置基準により、１単位の授業科目を45時間の学修（各自が行う事前・事後学修を含む）を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、各大学において定めるとされています。
なお、本学では、1時限90分の授業時間を2時間とみなし、計算します。

大学の授業内容は、単に授業に出席しさえすれば授業内容がすべて理解できるようなものではありません。単位を修得するためには、授業だけでなく、各自で授業外に準備学修等（事前・事後学修）を行う必要があります。各授業科目の準備学修等（事前・事後学修）の具体的な内容とそれに必要な時間はシラバスに記載されています。主体的な学修の仕方を身に付け、学修に励んでください。

出席情報システム

本システムは、産大モバイル（スマートフォンアプリ）と教室内設置の超低照度稼働ビーコンとWi-Fi APビーコンにより出席情報を収集するシステムです。
学生は自身のスマートフォンで産大モバイル（スマートフォンアプリ）を起動し、授業開始時に科目が開講されている教室内にて産大モバイル内の「出席システム」より、「出席情報の送信」を1回送信するだけで「出席」「遅刻」が自動判定されます。出席受付終了時間以降（授業開始後31分～授業終了時）の送信、もしくは「出席情報の送信」がない場合は、自動的に「欠席」扱いとなります。
自身の出席状況（当日）は、「出席情報の送信」10分後以降に「Portal-OSU」にログインし、本システムにアクセスするだけで確認できます。また、前日までの出席状況を翌日以降に「教務システム（履修・シラバス）」から科目ごとの出席状況、履修登録している全科目の出席状況を帳票（PDF）形式で確認・ダウンロードができます。

大学の授業は、「出席」して受講することで理解が深まり、授業が面白くなり、単位の修得、成績の評価に繋がります。一方で「欠席」が多くなると、授業が分からず、つまらなくなることで、更に「欠席」を繰り返し、成績不振で、留年になるなど、悪循環に繋がりかねません。

充実した大学生活を送るためにも、全ての授業には遅刻せず出席しましょう。

出席情報の送信・アクセス方法などの詳細説明は操作説明書（学生向け）を確認してください。

「ポータルシステム」→「履修申請支援メニュー」→「出席情報システム　操作説明書（学生向け）」
※本システムに関するお問い合わせは、教務課の出席情報システム担当者へお問い合わせください。

授業（休講・補講・欠席　等）

休講

◎担当教員の都合による休講
担当教員の都合により授業ができない場合は、ポータルシステム Portal-OSU で案内します。
体調不良等やむを得ない事情により授業開始直前の連絡となる場合もあります。

◎気象警報および交通機関途絶による休講
次の１）～4）のいずれかに当てはまる場合は休講となり、授業や試験は行われません。
警報が解除、あるいは交通機関が平常に回復した場合は、下記のとおり授業あるいは試験が実施されます。

1）大阪府下のいずれかの地域または兵庫県（阪神地区）に「暴風警報」、「暴風雪警報」、「特別警報（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪）」が発令されたとき。
2）大東市に土砂災害警戒情報レベル４以上が発令されたとき。
3）JR西日本「学研都市線（片町線）」の京橋～松井山手間の一部または全部が途絶しているとき。
4）Osaka Metro「中央線」・近畿日本鉄道「けいはんな線」（本町～生駒間）及び近畿日本鉄道「奈良線」の２交通機関が同時に途絶しているとき。

※事故等による一時的な交通機関運休の場合は、原則通常通り実施します。
※１）、２）の警報が授業中に発令された場合、授業を中止して休講になることがあります。

解除時間	授業の取扱
午前６時30分までに解除された場合	通常通り
午前６時30分を過ぎても解除されない場合	１時限目から２時限目まで休講
午前10時までに解除された場合	３時限目から通常授業
午前10時を過ぎても解除されない場合	３時限目から５時限目まで休講
午後３時までに解除された場合	６時限目から通常授業
午後３時を過ぎても解除されない場合	全授業休講

◎自然休講
授業開始後30分経過して担当教員が来室しない時は「自然休講」になります。
自然休講も補講対象となります。

補講

休講した授業については、別途補講授業を行います。

補講日については、ポータルシステム Portal-OSU にてお知らせします。

レポート

授業担当教員から、レポートを提出するよう指示があった場合は、次の点に注意してください。

・学科、科目名、教員名、学籍番号、氏名を明記した表紙をつけてください。
・２枚以上の場合は、ホッチキス等で綴じてください。
・教員から指示があった場合はそれに従ってください。
・授業担当教員から「レポートBOXに投入」する旨の指示があった場合は、指定されたレポートBOXに入れてください。（BOXは14号館１階・３号館１階および各学部・学科事務室にあります。）
・提出後の訂正や追加は認められません。
・提出締切日を過ぎると一切受け付けることができません。
・定期試験の代わりにレポートを課す授業もあります。常に授業に出席して情報を得るようにしてください。

（表紙記入例）

学科名	○○○○
科目名	○○○○
担当教員	○○○○先生
レポート課題	○○○○
学籍番号	○○○○○○
氏名	○○○○

講義時間割	講義時間割は毎年作成されます。 年度によりカリキュラム表と異なる学期（前期・後期）で開講される場合や、開講されない場合があります。 履修申請をする際には講義時間割表および時間割修正情報を確認するようにしてください。 ※講義時間割および時間割修正情報はWeb履修申請支援メニュー＞講義時間割表および時間割修正情報、もしくはポータルシステム Portal-OSU ＞教室・教員変更照会よりご確認ください。
集中講義	各授業科目の講義は通常、前期・後期・通年の授業形態で行われます。しかし、授業科目担当者を学外から招く等の理由で、長期休暇期間等を利用して行う集中講義があります。日程についてはポータルシステムでお知らせします。
海外研修	言語文化科目分野の単位が修得できる海外研修科目があります。参加希望者は３月下旬に実施される語学研修ガイダンスに参加してください。なお、海外研修に参加する場合は、履修申請期間に必ず登録してください。詳しくは国際交流課にご相談ください。
既修得単位の認定	入学前の既修得単位の認定とは、本学に入学する前に他の大学・短期大学において修得した単位、あるいは高等専門学校・その他文部科学大臣が別に定める教育機関（専修学校等）での学修について、最大60単位まで本学で修得した単位として認める制度です。認定を希望する場合は、下記の内容で取り扱います。受付期間を過ぎてからの申請は認められませんので注意してください。 専門学校の場合は、修了時に「専門士」の資格を修得していることが条件です。 ①受付期間……2023年４月1日（土）～2023年４月8日（土） ②受付場所……教務課窓口 ③必要書類……１）当該学校が発行する成績証明書または単位修得証明書 （各科目の単位数および配当時間数が記載されていること） ２）当該学校の学生便覧、シラバス等（カリキュラムがわかるもの）
授業の欠席	＜「欠席届（一般用）」の手続きの流れ＞ ①印鑑、公的な証明書（疾病に関する場合は診断書、親族の冠婚葬祭の場合は参列した証となるもの、葬儀の場合は会葬礼状など）を持って教務課にお越しください。 ②「欠席届（一般用）」を記入してください。 ③教務課受付後、欠席した科目の担当教員に、「欠席届（一般用）」を提示してください。 ④提示終了後に「欠席届（一般用）」を教務課に返却してください。 原則的に授業欠席の電話連絡は受け付けていません。 そのため、教務課から担当教員への欠席連絡の取り次ぎは行いません。 後日、教務課にお越しください。ただし、感染症のおそれ、事件・事故等があったときは、教務課または学生生活課まで電話連絡してください。 上記の記載内容以外の手続きについては、別途ポータルにて連絡します。 学校認定活動に伴う欠席届の手続きについては、申請窓口の指示に従ってください。
注意事項	①授業には必ず出席するよう心掛けてください。遅刻や早退もしないようにしてください。 ②授業中の私語は控えてください。授業の妨げにならないようにしてください。 ③授業中に教員の指示なくスマートフォン等の電子機器を使用（板書事項等の撮影を含む）しないでください。ただし、診断書等により特別に許可された学生を除きます。

身体科学科目について

受講時の注意

■出欠席を厳しくとります。身体科学科目は3回までの欠席は認めます。
原則4回以上欠席した場合は不合格となり、単位は認定されません。

■「スポーツ科学実習」について

・服装は、運動服であれば高校で使用したもので差し支えありません。

・体育館内の種目を受講する学生は、体育館シューズを使用してください。

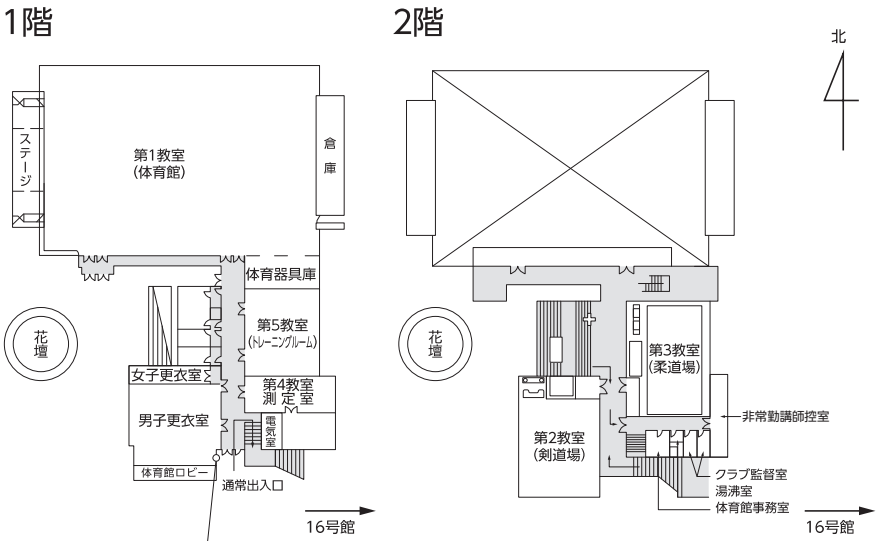
・テニスを受講する学生は、原則テニスシューズを使用してください。

・ロッカー使用の場合には、各自指定番号の鍵を授業時間ごとに借り出し、授業終了後必ず返却してください。

■受講に関する指示は、体育館入口の掲示板を見てください。

■「ボウリング」は学外施設にて実施します。（※ゲーム代等別途費用がかかります）

総合体育館見取図



体育館掲示板はここにあります。
（ポータルシステム Portal-OSU の教室番号に*と記載されている場合、実施場所はこの掲示板もしくは教員から指示されます。指示の無い場合は2階非常勤講師控室で確認してください。）

定期試験

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験が行われます。
授業（科目）によっては定期試験期間以外に試験を実施する場合もあります。授業期間内に試験が行なわれたり、レポートを提出しなければならない授業、授業中に課題を与えられる場合もありますので、気をつけてください。日頃の出席状況、受講態度なども評価の基準になります。さらに、単位認定にあたり、出席を前提としている科目もありますので注意してください。
詳細は、Webシラバスにて確認してください。

定期試験を受けるためには

履修申請が必要です。「履修登録確認表」（P16参照）で登録が確認された授業科目以外の試験を受けることはできません。
また、授業料（等）を納入していなければなりません。

試験時間

■試験期間

前期試験 （7月下旬～8月上旬）	前期終了科目・通年科目（中間試験）
後期試験・学年末試験 （1月下旬～2月上旬）	後期終了科目・通年科目

※通年科目の前期試験は中間試験として行います。

■試験時間

1時限	9:20～10:40
2時限	11:00～12:20
3時限	13:00～14:20
4時限	14:40～16:00
5時限	16:20～17:40
6時限	18:00～19:20

※通常試験時間は80分ですが、科目によっては60分の場合もあります。

試験時間割照会手順

① Portal-OSU（学生ポータルシステム）にログインし、左メニュー「定期試験時間割照会」を選択

②「定期試験時間割情報」タブを選択

③履修申請科目のうち定期試験が実施される科目の一覧が表示されます

※詳細は『Web履修申請ガイドブック』の定期試験時間割照会ページを確認してください

定期試験に関する注意事項

●授業時間割と異なる曜日・時限で試験を実施する場合があります。
●他曜日・他時限のクラスと合同で試験を実施する場合があります。
●受験者数の関係で、教室を分けて試験を実施する場合があります。
●試験時間割発表後にも実施日・教室等が変更される可能性があります。
●旧カリキュラム適用の学生で科目の読み替えのある学生は、Webシラバス（授業計画書）参照の上、試験科目・試験日時を確認してください。
●自由科目や乗り入れ等で他学部他学科の科目を履修している学生は、その科目が本来開講されている学部・学科の試験時間割を確認の上、受験してください。
①試験場では、学生証を通路側の机上に置いてください（学生証のない者は受験できません）。
②学生証を忘れた時は、本館１階教務課前のパピルスメイトにて「試験用臨時学生証」を発行後、試験会場に入室してください。
「試験用臨時学生証」は当日のみ有効とし、当日の試験終了後直ちに教務課に返却してください。
「試験用臨時学生証」の発行手数料は500円です。
●試験開始後30分以上遅刻した者は受験できません。
●試験中に不正行為を行った者には退場を命じ、以下の通り処分します。
◎注意義務違反を怠った者…当該科目の試験を無効とします。（監督者の指示に従わない者、受験態度が悪い者など。）
◎不正行為を行った者……当該試験期間中の試験をすべて無効とします。

修学規程	単位認定に係わる試験（以下「試験」という。）を受験しようとする者は、試験場において、次の各号に定める事項（以下「注意義務」という。）を守らなければならない。 (1) 試験場においては、監督者の指示に従わなければならない。 (2) 試験開始後30分以上遅刻した者は試験場に入ることができない。 (3) 受験のさいは、学生証を机上に置かなければならない。学生証を所持しない者は受験することができない。 (4) 答案用紙には、学籍番号および氏名をペンまたはボールペンで明記し、監督者に学生証との照合を受けなければならない。 (5) 特に許可されたものを除き、すべて携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。 (6) 配布を受けた答案用紙およびその他の用紙類はすべて、監督者が指定する場所に提出し、試験場外に持ち出してはならない。

修学規程	1.試験にさいして、次の各号の何れかの行為を行った者は、不正行為者とみなし、学生証および答案を取り上げて退場を命じる。 (1) 前条の注意義務に抵触する行為 (2) 許可されたもの以外を見ること (3) 他人の不正行為を助けること (4) 不正行為を目的とするものを保持すること (5) 不正行為に係わる物的証拠を故意に隠蔽すること (6) その他不正行為とみなされること 2.不正行為を行った者にたいしては、次の各号に従って処分を行う。 (1) 前項１号の不正行為を行った者は、当該科目の試験を無効とする。 (2) 前項２号から６号の不正行為を行った者は、当該試験期間中の試験を無効とする。 (3) 不正行為を繰り返すなど特に悪質な者にたいしては、学則第48条に基づいて懲戒処分とする。

追試験

追試験は、病気等で定期試験を受けることができなかった者が、以下のイ）～ホ）に該当する場合に申し込むことができます。通年科目の中間試験に追試験はありません。
追試験の成績は90点満点です。試験時間、試験場での注意、不正行為者の処分等については、定期試験と同様に扱われます。

受験該当者	イ）傷病等による公的な診断書※1がある者。 ※１受診日以外に欠席を要する場合は、その欠席期間も安静を要することが判らなければ、原則として追試験の受験は認められません。 ロ）採否に関わる就職活動の証明※2がある者。 ※２以下の手順に従ってください。 ①「就職活動証明書」を事前にキャリアセンターで受け取り、必要事項を記入の上、キャリアセンターで受付（大学受付）印をもらう。 ②訪問企業で確認印等をもらう。 ③原則として、担当教員から確認の押印をもらう。 ④キャリアセンターで受付（大学提出）印をもらう。 ⑤教務課へ提出。 ハ）クラブ活動における関西大会以上の公式試合、並びに大会に参加するため予め許可を得た者。（大会期間＋往復日数） ニ）各時限において、交通機関の遅延により受験できなかった者で、30分以上の遅延が証明できる（Web遅延証明書、または公の証明書に発生年月日、時間帯が明記され、代表者の印のあるものに限る。）場合、発生した当日に教務課窓口に申し出て、申請事項と相違ないと認められた者。 ホ）試験期間および期間外に次の事項で特別に休んだ場合、保護者および他の証明書がある者。 ・父母、配偶者（それに準ずる者を含む）または子が死亡した時（７日＋往復日数） ・祖父母または兄弟姉妹が死亡した時（２日＋往復日数） ・上記の親族における１周忌までの法要を行う時、または上記以外の親族が死亡した時（１日＋往復日数） ・交通事故で被害者の場合は、事故が発生したその日から追試験を受験できる日まで。 ※その他特別な理由のある者は、別に審議します。
申し込み方法	追試験を受験するためには、「追試験受験願」に必要事項を記入し、決められた申し込み期間内（別途ポータルシステムに記載します。）に、受験料（1,000円／１科目）を添えて申し込んでください。 追試験受験可否については、教授会において審議し決定します。その結果は、ポータルシステムからお知らせ配信で発表します。 メール通知設定の登録を必ずしてください。 ただし、就職試験、交通機関の遅延および裁判員としての職務従事のために定期試験を受験できない場合は、受験料は必要ありません。

成　績

正しく履修登録された科目について、所定の試験を受けた結果、成績が「S」「A」「B」「C」に評価された場合に単位修得となります。

成績評価

基準	評価	
100点～90点以上	S（秀）	合格
90点未満～80点以上	A（優）	
80点未満～70点以上	B（良）	
70点未満～60点以上	C（可）	
60点未満	D（不可）	不合格
成績評価に至らない	＊	

注１）＊（アスタリスク）について
「Webシラバス」に明示された各科目の成績評価基準に基づき、成績評価に至らない場合は＊（アスタリスク）となります。

≪「Webシラバス」を参照するには、ポータルシステム Portal-OSU Webシラバスにアクセスしてください。≫

注２）T（認定）について
教授会で認められた場合は、60単位を超えない範囲で本学での単位として認定します。（P18参照）
１）入学前および入学後における他の大学、短期大学で修得した単位。
２）短期大学・高等専門学校における学修や、その他文部科学大臣が別に定める学修。
３）インターンシップなどの単位認定科目。（詳細は学科により異なります）

成績発表

「履修登録確認表」で登録が確認された科目以外は、単位を修得することができません。

パピルスメイト（証明書自動発行機）で年間２通まで成績表を発行することができます。

≪ポータルシステム Portal-OSU ③教務システム（履修・シラバス）にアクセスし、成績表で確認してください。≫

通年科目の中間試験・前期集中講義については、前期成績発表はありません。
成績発表（交付）日程は当該年度の学年暦を参照してください。

成績問い合わせ

発表された成績について調査を依頼する（納得できない）場合には、教務課で所定の様式により手続きをしてください。
成績発表開始日以降の所定期間（約5日間）であれば問い合わせすることができます。ただし、卒業予定者については、成績発表開始日より所定期間（約２日間）まで問い合わせに応じます。（詳細日程はポータルシステムよりお知らせします。）
なお、問い合わせの根拠（納得できない）理由は、シラバスの「成績評価基準・方法」欄および「成績評価Dに該当する＊の基準」欄を参考にして客観的な事実のみを拠りどころとして記述してください。私情を交えた嘆願的文書は受付けません。
電話・メールによる受付はできません。

平均点算出方法

平均点は成績評価に基づき、次の式により算出します。

評価	S	A	B	C
点数	97	85	75	63

$$平均点 = \frac{(Sの数 \times 97) + (Aの数 \times 85) + (Bの数 \times 75) + (Cの数 \times 63)}{Sの数 + Aの数 + Bの数 + Cの数}$$

GPA制度と修学指導・退学勧告

本学では、学生の皆さんの学修意欲向上と、教職員による適切な修学指導支援のため、GPA（Grade Point Average）制度を設けています。
GPAの値が著しく悪化した場合には、学科の教育職員から修学指導を受けることとなり、また場合によっては退学勧告を受けることもあります。
学生の皆さんはGPA制度の趣旨を十分理解し、卒業に向けてより効果的な学習を行ってください。

GPAとは

GPAとはアメリカなどの大学で多く使用される成績の評価方法で、S・A・B・C・Dといった成績評価をGP（Grade Point）と呼ばれる数値に置き換え、それにそれぞれの取得単位数を乗じたものを履修申請単位数で除して算出される１単位あたりの平均値です。
仮に、単位を取得することができた科目の成績が良くても、一方で不合格となった科目の数も多ければGPAは高くなりません。
したがって、GPAを高い水準に保つためには、履修登録した科目をひとつひとつ丁寧に学習し、それぞれ高い評価で合格することが必要となります。

GP

GPは、成績評価に基づき下表のとおりとします。

成績評価	S	A	B	C	D・＊
GP	4	3	2	1	0

GPA計算式

GPAは次の式により算出します。

$$\text{GPA} = \frac{(4\times\text{Sの取得単位数})+(3\times\text{Aの取得単位数})+(2\times\text{Bの取得単位数})+(1\times\text{Cの取得単位数})}{\text{履修申請した総単位数}}$$

（小数点第４位以下切り捨て）

なお、GPAの算出には、卒業要件に算入されない教職課程の科目も含め、すべての科目が対象となります。
また、GPAは「年度GPA」（年度ごとのGPA）と「累積GPA」（入学以後の通算GPA）の二つに分けられます。

GPA制度のねらい

GPAは「４」に近いほど学修状況が良好であることを示します。
一方で、GPAが「０」に近ければ、履修登録単位数が過剰であったり、体系的・効率的な履修ができていないなど、学習状況に何らかの問題が生じている可能性があります。
そういった問題を適宜発見し、教職員の指導も交えながら、皆さんの以後の学習改善に繋げるためにGPA制度は有効であるといえます。なお、学修成果把握の目安として成績表に順位を表示します。

修学指導・退学勧告

大学は、GPAが著しく低くなった学生に対し、単位修得状況に応じて、各学科で修学指導（相談）が行われ、また下記の手続きを経て退学勧告を行うことがあります。

1．１年次終了時において累積GPAが0.500未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談の上、次年度以降に向けた適切な修学指導を行う。
2．２年次以降の各年度終了時において累積GPAが0.500未満の者には、各学科が指定する教育職員が面談および修学指導を行う。
3．前項の面談および修学指導を行った教育職員は、その結果を学科主任に報告する。
4．前項の報告を受けた学科主任は、今後の改善見込みの可否について判断し、改善の見込みがないと判断した場合は、学部長に判断結果を報告する。
5．前項の報告を受けた学部長は、学科主任と協議を行い、改善の見込みがないと判断した場合は、当該学生への退学勧告について、教授会の議を経て学長に報告する。
6．前項の報告を受けた学長は、当該学生に対し退学勧告を行う。
ただし、GPA制度はあくまでも学生の皆さんの学習意欲向上を目的としているため、むやみに退学勧告を行うことはありません。

上記に定める学科の教育職員の面談・修学指導により、以後の学習改善に向けた意欲が確認できれば引き続き修学することが可能です。
一方で、「面談の呼び出しに応じない」「面談したが学習改善に向けた意欲が見られない」といった場合は、退学勧告の対象となることがありますので注意してください。

成績表の見方

(ASD010R01)　　　　PAGE:　1 /　1

成　績　表

○○学部
○○学科 ○○コース
20XX 年　4 月　1 日 入学

学籍番号　99X999
氏　名　産大　太郎（サンダイ　タロウ）
19XX 年 10 月 10 日 生

科目名	単位	評価	
【総合教育科目】			
〈教養教育科目〉			
表現力基礎演習	選択2	B	
(人文科学)			
論理学	選択2		*
心理学	選択2	B	
社会思想史	選択2	C	
(社会科学)			
日本国憲法	選択2	B	
経済学の基礎	選択2	B	
近代史	選択2		S
地理学	選択2	A	
(学際領域)			
外国の社会と文化	選択2		C
倫理学(工業倫理を含む。)	選択2	C	
〈言語文化科目〉			
(英語)			
英語(Listening&Speaking)1	選択1	S	
英語(Listening&Speaking)2	選択1	C	
英語(Reading&Writing)1	選択1	A	
英語(Reading&Writing)2	選択1	B	
(初修外国語)			
ドイツ語入門1	選択1	C	
ドイツ語入門2	選択1	C	
フランス語入門1	選択1	C	
中国語入門1	選択1	C	
〈身体科学科目〉			
スポーツ科学	選択2		B
【専門教育科目】			
〈専門基礎科目〉			
基礎数学および演習	選択2	A	
基礎物理学	選択2	C	
解析学1	必修2	B	
解析学2	必修2	C	
代数学1	必修2	S	
代数学2	必修2	A	
工業数学	必修2	C	
工業数学演習	必修1	B	
物理学2	必修2	B	
化学	選択2	B	
工業力学1	必修2	C	
材料力学1	必修2	B	
材料力学演習	必修1	B	
材料力学2	選択2	C	
機械動力学	必修2	C	
機械製作法	必修2	B	
図形科学	選択2		B
機械製図	必修2	C	
機械設計学1	必修2		C
CAD演習	選択1		D
材料工学1	必修2	C	
流体工学1	必修2	B	
流体工学演習	必修1	B	
熱工学1	必修2	C	
熱工学演習	必修1	C	
電気工学1	必修2		B
電気工学2	選択2	C	
情報基礎演習	必修1	B	
外国書講読	必修2	A	
交通機械基礎実習	必修2	B	
交通機械実験・実習1	必修2	C	
〈専門応用科目〉			
自動車構造論1	必修2	B	
自動車構造論2	必修2	C	
自動車性能論	必修2		B
自動車強度論	必修2	B	
自動車技術論	必修2	A	
自動車整備工学	必修2	C	
交通原動機学1	必修2	B	
自動二輪工学	選択2	C	
トライボロジー	選択2	C	
福祉機械	選択2	C	
交通機械デザイン論	選択2		B
自動車工学実習1	必修4	C	
自動車工学実習2	必修4	C	
自動車工学実習3	必修2	C	
交通機械実験・実習2	必修2	B	
〈セミナー・卒業研究〉			
セミナー	必修2	A	
-- 以下余白 --			

評価欄：
左寄り：前年度までに単位修得済の科目の評価
右寄り：今年度に履修した科目の評価

単位欄：
科目の属性と単位数
〔科目の属性〕
必修…必修科目
選必…選択必修科目
選択…選択科目
コ必…コース指定必修科目
指必…指定選択必修科目

科目名欄：
前年度までに単位修得済の科目
および
今年度履修した科目

表Ⓐ

科目区分	卒業要件単位数	修得卒業要件単位数	修得総単位数
教養教育	―	―	18
言語文化	8以上	8	8
(内　英語)	(4以上)	―	(4)
身体科学	―	―	2
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修	78	71	71
選択	14以上	14	20
(内　自由科目)	(0～4)	―	(0)
専門教育(小計)	92以上	85	91
合計	124	117	119

卒業要件外教職科目	修得総単位数
教科に関する科目／教科又は教職に関する科目	0
教職に関する科目	0

卒業要件の参入対象ではない科目(教職免許用科目)の集計欄

20XX年度 GPA	累積 GPA
1.684	1.491

20XX年度 GPA順位	累積 GPA順位
/999	/999

(注)
1. 進級判定時の順位を表示
2. 休学履歴がある場合または修業年限を超える場合は順位を非表示

＜成績評価＞
S（秀）：１００～９０点　T　　　　：認　定
A（優）：　８９～８０点　D（不合格）：５９点以下
B（良）：　７９～７０点　＊　　　　：未受験科目
C（可）：　６９～６０点

表Ⓑ

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次		
4年次	有	有	卒業		

履修制限（指定先行科目）	発表時		次年度	
申請制限単位数	50			

20XX 年　9 月　19日
大阪産業大学　教務課

表Ⓐについて

④ 科目区分	① 卒業要件単位数	② 修得卒業要件単位数	③ 修得総単位数
教養教育	―	―	18
言語文化	8以上	8	8
（内　英語）	(4以上)	―	(4)
身体科学	―	―	2
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修	78	71	71
選択	14以上	14	20
（内　自由科目）	(0～4)	―	(0)
専門教育(小計)	92以上	85	91
合計	124	117	119

①卒業要件単位数

卒業に必要な単位数

②修得卒業要件単位数

修得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数
修得卒業要件単位数の要件を充足しているかを判断します。科目区分毎の要件を超えて表示されることはありません。

③修得総単位数

修得している全ての単位数(卒業要件としてカウントされていない単位数を含む)

④科目区分、卒業要件単位数欄

学部学科が定めた要件区分名を示します。

表Ⓑについて

⑤	⑥ 表時	⑦	⑤ 次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次		
4年次	有	有	卒業		

⑧ 履修制限（指定先行科目）		発表時		次年度	
申請制限単位数	50				

⑤履修年次

2年次	2年次に進級
3年次	3年次に進級
4年次	4年次に進級
卒業	卒業見込
卒1	卒業確定
4留	卒業延期
9月卒	9月卒業確定

⑥卒見証発行(3年次／6セメ以上)

有	無
卒業見込証明書 発行　可	卒業見込証明書 発行　不可

卒業見込証明書とは、当該年度に卒業が可能で有ることを証明するもので、就職活動等に必要です。
【発行条件】
①既に卒業要件単位数を充足していること。
②卒業要件単位を充足できる履修申請が完了していること。
③3年(編入生は1年)以上在学していること。

⑦卒研資格(3年次)

有	無	既有	済
卒業研究 履修 可	卒業研究 履修 不可	卒業研究 履修 可 (前年度より)	卒業研究 単位修得済

※各学科により資格が異なりますので、Chapter02で確認ください。

⑧履修制限

経営学科	S1	来年度「研究ゼミナール」を履修する事ができません。
商学科	S1	「専門演習B」を履修する事ができません。
	S2	来年度「卒業演習」「卒業研究」を履修する事ができません。
経済学部	S1	「専門演習3」を履修する事ができません。
	S2	「専門演習4」を履修する事ができません。
	S3	「専門演習5」を履修する事ができません。
	Z	2年次後期終了時までに「専門演習1」を含む卒業要件単位が28単位以上修得していない場合は、学科配属が決定されません。 (従って、3年次からの「専門演習2」が履修できません。)

※21B・21C・21Eの編入生は上表とは異なります。Chapter03で確認ください。

授業料（等）の納入について

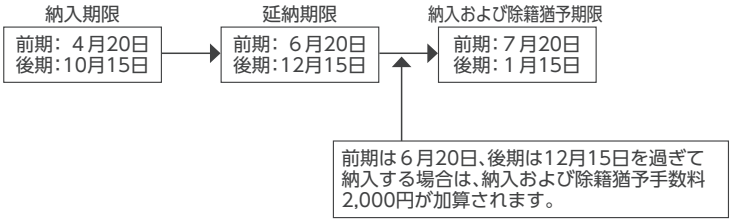
授業料、教育環境充実費（以下「授業料（等）」という。）は前期と後期に分け、それぞれ年額の２分の１を納入していただきます。
また、諸会費（学会費・自治会費・校友会費・後援会費・学生健康保険組合費）は入学時から８回（編入生は４回）に分けて、授業料（等）の納入時に併せて納入していただきます。
なお、１年分をその年の最初の納入期限までに一括して納入することができます。
詳しくは、本館９階経理課窓口にお問い合わせください。
一旦納入された授業料（等）は、返還いたしません。

納入期限

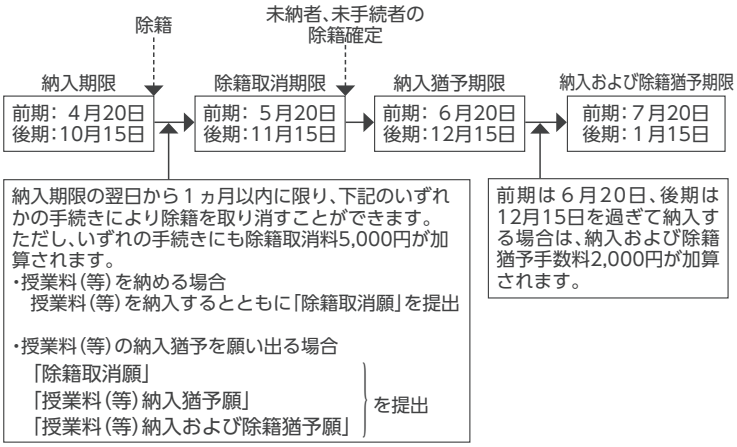
	前期	後期
授業料（等）納入期限	４月20日	10月15日

注）納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限とします。
※休学願・退学願の手続き期限も同様です。

■納入期限までに延納申請（「授業料（等）延納願」「授業料（等）納入および除籍猶予願」）の提出を行った場合



■納入期限までに（授業料（等）を納めなかった／延納申請を行わなかった）場合



振込依頼書

◎納入方法・金額については、授業料等振込依頼書に記載しています。
※金額については、大阪産業大学学則、別表第３に記載しています。
（在学年数が４年を超える学生および２年を超える編入生についても記載）

◎送付時期
前期は３月下旬、後期は９月上旬に保護者宅へ送付します。
※送付されない場合または紛失した場合、本館９階経理課へお問い合わせください。

学籍異動（休学・退学・除籍　等）

学籍異動と授業料（等）納入期限は密接に関係しています。内容をよく確認の上、休学・退学は事前に教務課までご連絡ください。

休学

病気その他の理由で休学しようとする者は、在籍料を納付し、「休学願」「在籍料納付書」を教務課経由で学長に提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければなりません。

◎手続きの流れ
教務課で「休学願」と「在籍料納付書」を受け取る。
※学科によっては、事前に面談が必要ですので、教務課までお問い合わせください。
↓
「休学願」と「在籍料納付書」に必要事項を記入する。
本館1階の証紙券売機で、在籍料分の証紙を購入し、在籍料納付書に貼付する。
↓
本館9階の経理課に、貼付済の「在籍料納付書」を持参し、在籍料を納付する。
↓
納付後、領収書と控えを受け取り、「休学願」と「在籍料納付書控え」を教務課に提出する。

◎休学期間、提出期限、在籍料について

	通年休学（１年間）	前期休学	後期休学
休学願等提出期限	４月20日	４月20日	10月15日
休学期間	４月１日～３月31日	４月１日～９月20日	９月21日～３月31日
在籍料	12万円	6万円	6万円
提出書類等	休学願、在籍料納付書控え、診断書（病気や怪我の場合）		

◎休学に関するきまり（学則第20条、学費納入規程第3条の２ほか）
1．休学期間は通算して3年を超えることはできません。
2．休学期間の授業料および教育環境充実費は徴収しません。ただし、学期の途中から休学する場合は、その学期の授業料および教育環境充実費は全額徴収します。
3．休学願等の提出期限は、授業料（等）の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日に当たる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、休学願等の提出期限も同様となります。

◎休学による進級や卒業時期への影響
学科によっては半期の休学でも卒業は1年遅れる場合がありますので、注意してください。
詳しくは、教務課で確認してください。

◎次のような場合は、まず教務課までお問い合わせください。
1. 新入生（新編入生含む）が入学後すぐに休学する場合は、入学時に納入された授業料（等）は、休学期間終了後、復学時の授業料（等）に充当しますので、いかなる場合も一切返還いたしません。また、その上で、休学期間に応じた在籍料納付が必要です。
2. 留学生で、兵役により年度をまたぐ長期休学が必要な場合については、年度ごとの休学願の提出と、全休学期間分の在籍料納付を一度にまとめて行ってください。

復学

◎休学期間を満了すると、翌日(学期)から手続不要で自動的に復学となりますので、復学前（休学中）に、復学する学期の履修申請や学費納入等、手続きを期間内に行ってください。
◎休学期間途中に復学する場合には、「復学願」を教務課に提出し、当該学期の授業料（等）を全額納入しなければなりませんが、当該学期の在籍料は返還します。
◎病気、ケガによる休学から復学する場合は、修学に差し支えない旨の医師の診断書が必要です。手続きについては教務課にご相談ください。

退学

病気その他やむを得ない理由で退学しようとするときは、「退学願」と学生証（返還のため）を教務課経由で学長に提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければなりません。

	前期	後期
提出期限	4月20日	10月15日

※退学願の提出期限は、授業料（等）の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、退学願の提出期限も同様となります。

提出書類等	退学願、学生証（返却）

提出前に必ず教務課にご相談ください。

※通年休学（1年間）中に前期（4月1日から9月20日）の途中に退学した場合、後期（9月21日から3月31日）休学分の在籍料は返還します。
※休学期間満了日は、前期9月20日または後期3月31日ですが、休学中に退学を願い出た場合、事情に応じて、願い出日を退学日とすることができます。ただし、学期（休学期間）を遡って退学することはできません。

除籍

学生が、次の各号のいずれかに該当するときは、除籍となります。
（1）授業料（等）について、納入期限を超えても納めないとき
（2）長期に渡って欠席し、または病気その他の理由で成業の見込みのないと認めたとき
（3）学部の同一学科において、休学期間を除き、在学期間が修業年限（学部は4年）の2倍を超えたとき
※経済学部においては、学科配属前の期間を含みます。
（4）死亡したとき

再入学

除籍または退学した学生が再入学を希望するときは、再入学試験に合格し、合格手続期間内に再入学金ならびに再入学する学期の授業料（等）を納入しなければなりません。
再入学時の授業料（等）については、延納申請ができませんのでご注意ください。
なお、再入学試験の受験資格は、出願時に退学後3年を超えない者、除籍後3年を超えない者となっています。
※特別な理由がある者については、3年を超えても再入学の願出を認めることがあります。また、再入学の試験その他に関しては、教務課にご相談ください。

各種届出用紙は教務課窓口で受け取るか、以下の通り大阪産業大学Webサイトよりダウンロードが可能です。
大阪産業大学Webサイトトップページ＞キャンパスライフ＞各種届出・証明書

転科・学部変更について

本学の学生が、現在の学部・学科から他学部・他学科へ移籍することです。
募集の詳細は、「転科・学部変更試験要項」で確認してください。(検定料:15,000円)

① 出願資格

・志望する学部の学科に欠員があること。(欠員状況によって実施しない学科もあります。)
・１年在学あるいは２年次以上で、改めて当該学科２年次への転籍等を希望する者。
・卒業予定者および休学中の学生は「転科・学部変更試験」を受験できません。

② 転科・学部変更試験要項について

・例年12月末に本学Webサイトにアップロードし、教務課窓口でも配布いたしますので、確認してください。

③ その他

・転籍後は学籍番号が変わりますので、合格手続きの際、確認してください。
・修得単位の取り扱いは、転籍先のカリキュラムに準じて単位移行されますが、全ての修得単位が移行されるとは限りません。
・合格発表後の辞退は認められません。

Chapter 02

電気電子情報工学科
23L 入学生

01 履修申請 …… 35
02 成績表の見方 …… 39
03 卒業要件単位数（外国人留学生も共通） …… 40
04 卒業研究 …… 44
05 卒業見込証明書 …… 44
06 免許・資格について …… 45
07 飛び級制度 …… 53
08 大学院工学研究科授業科目早期履修制度 …… 53
09 カリキュラム …… 54

01 履修申請

・「履修申請」とは、自分が受けたい授業科目を申込むことです。
・「履修申請」は、本年度の学習方針を決定するだけでなく、次年度以降の履修にも影響しますので、履修制限等をよく読んだ上で、自分の時間割の計画を立てて申請してください。
・大学では必修科目等を除いて、一定の枠の中から受けたい科目を選択できるようになっています。
・申請期限までに所定の手続きを行わなかったり、間違ったりすると、授業に出席して、試験を受けても単位が認められませんので、慎重に行ってください。
・申請の手順については、別に配布するWeb履修申請ガイドブックをご覧ください。

❶ 履修計画における注意点

①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス」をよく読んでください。
②各時間帯に開講されている授業科目の中から自分が受けたい科目を選び、選んだ科目を各自で履修申請してください。学生1人1人の時間割の内容は、同じ学部・学科であっても違ったものになります。
③同じ学部・学科でも、コースによって選択すべき科目が異なります。各コースの履修要件、卒業要件をよく読んで履修計画を立ててください。
④卒業資格最低単位数（卒業要件単位数）を充足できるよう重点をおいてください。
⑤申請する前に、学籍番号などによって指定されているクラス等を確認してください。
⑥各ガイダンスには必ず参加してください。
⑦既に単位修得した科目を、再度履修することはできません。

❷ 専門教育科目

1年次から年次ごとに実験、実習、演習が開講されています。これらの科目は、2～3時限連続で開講されるものもあります。配当年次で修得できないと、次年度の必修科目と重複する場合がありますので注意してください。

❸ 手続方法

下記の①②については、Chapter01のP14-15の①～③を参照してください。

①履修計画を立てる

②登録手続き（3つの期間（順序）に分けて行う）

a.クラス登録科目応募

b.本申請

c.修正

③言語文化科目について

・決定した担当教員のクラスで履修申請をしてください。
・TOEICクラスの受講は、一定の基準に達した学生に限ります。
・第１希望にもれた場合は、同一曜日・時限の別のクラスに割当てられることがあります。
・新入生の英語については、プレイスメントテストの結果発表に従って履修申請してください。

④身体科学科目

・再履修者は、再履修クラスでの登録となります。
・リハビリコースクラスは、怪我などで運動に制限がある学生が対象となります。

❹ 自由科目

他学部（自分の所属する学部以外）および他学科（自分の所属する学科以外）の専門教育科目を、卒業までに30単位まで履修することができます。そのうち4単位までを、専門教育科目の選択科目として、卒業要件単位に算入することができます。（これを「自由科目」と称します。）ただし、履修の認められない科目がありますので下表で確認してください。

・自由科目を履修したい人は、Webシラバスを熟読のうえ選択してください。

・自由科目は、Web履修申請画面で確認できる（表示されている）科目から選択してください。

電気電子情報工学科

学部名	学科名	卒業要件に認められる単位	自由科目として扱わない科目
国際	国際	4単位	製図、演習、実験、実習、外国書講読、卒業研究 ※その他各学科の事情等により除外する科目
スポーツ健康	スポーツ健康		
経営	経営、商		
経済	経済、国際経済		
デザイン工	情報システム、建築・環境デザイン、環境理工		
工	機械工、交通機械工、都市創造工		

❺ 履修制限

電気電子情報工学科には以下の履修制限がありますので、注意してください。

23L学生に適用

1年間に履修できる単位数		最大48単位 ただし以下の教員免許取得に係わる科目と単位認定科目は除きます。 ・「教科及び教科の指導法に関する科目」に規定する科目のうち職業指導および情報と職業ならびに「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」 ・「教育の基礎的理解に関する科目等」および「大学が独自に設定する科目」ただし、教育原理、教育心理学、道徳教育の理論と方法、人権教育および生涯学習論の5科目は履修制限に含む。 ・単位認定科目として規定する科目（「実践特別科目」）
学年による科目の制限		1年次：1年次配当科目を履修可能。　2年次：1、2年次配当科目を履修可能。 3年次：1～3年次配当科目を履修可能。4年次：すべての開講科目を履修可能。
卒業要件単位		卒業までに次の3つの科目群から合わせて124単位以上を修得する。 ・実践教育科目：8単位以上　・専門教育科目：88単位以上 ・総合教育科目：20単位以上　詳細はP40に記載
実践教育科目		卒業までに卒業要件8単位以上を修得。ただし、3年次修了時までに最低要件8単位以上を修得しなければ、次年度「卒業研究」を履修することはできません。
総合教育科目		卒業までに卒業要件20単位以上を修得。ただし、3年次修了時までに最低要件20単位以上を修得しなければ、次年度「卒業研究」を履修することはできません。
総合教育科目	教養教育科目	■留学生は、日本文化8単位を必修とします。
総合教育科目	言語文化科目	■卒業要件単位は、8単位以上（うち英語の卒業要件単位を4単位以上）とします。（英語のみも可）（留学生除く） ①英語は入学初年度に限り、プレイスメントテストの結果により習熟度別クラスに分けます。 ■初修外国語（ドイツ語、フランス語、中国語）を履修する場合は、必ず「入門1」から履修してください。 ■留学生は、①母語を履修することはできません。②日本語8単位を必修とします。
専門教育科目		■数学プレイスメントテストの結果により、履修の順序が、①または②に指定されます。 ①「基礎数学および演習」→「解析学1・代数学1・数学演習1」→「解析学2・代数学2・数学演習2」 ②「解析学1・代数学1・数学演習1」→「解析学2・代数学2・数学演習2」→「解析学3・代数学3」 ※①の者は、「解析学3」、「代数学3」を履修することはできません。 ※②の者は、「基礎数学および演習」を履修することはできません。 ■物理プレイスメントテストの結果により、履修の順序が、①または②に指定されます。 ①「基礎物理学および演習」→「物理学1および演習」 ②「物理学1および演習」→「物理学2」 ※②の者は、「基礎物理学および演習」を履修することはできません。 ■全員履修科目を含む習熟度別クラスは、強制的に登録されます。 ■専門基礎科目分野の「基礎プログラミング1・2」をともに修得していなければ、専門応用科目分野の「組込システム」を履修することはできません。 ■専門基礎科目分野の「回路の基礎」「電気回路1」「基礎電磁気学1」をすべて修得していなければ、「発変電工学」「送配電工学」「電気機器工学」「電気応用工学」を履修することはできません。
その他		既に単位を修得した科目を、再度履修することはできません。

※留学生は、言語文化科目として母語を履修することはできません。
履修を希望する初修外国語科目が母語でないにもかかわらず申請画面に表示されていない場合は、教務課までお問い合わせください。
母語の初修外国語科目が表示されている場合でも、母語は履修できませんのでご注意ください。

02 成績表の見方

成績発表の時期

Chapter01　P3「一年間の流れ(学年暦概略)」を参照してください。

確認方法

Chapter01　P23「成績」、P26・27「成績表の見方」を参照してください。

卒業に関わる項目の見方

Chapter02　P41「進級の条件」を参照しながら、下記の例を参考にしてください。

Chapter01　P27「表Ⓑについて」と相互に確認をしましょう。

●3年次後期(学年末)の成績表には、次年度の卒業研究履修資格の有無が記載されています。

・4年次に卒業研究履修資格があり、卒業見込み“有り”の状態になる。

発表時			次年度		
履修年次			履修年次	卒見証発行	卒研資格
3年次			4年次	有	有

・4年次に卒業研究履修資格がない。4年次では卒業見込みがない。

発表時			次年度		
履修年次			履修年次	卒見証発行	卒研資格
3年次			4年次	無	無

●4年次後期(学年末)の成績表では、卒業見込みが有る場合、卒業が確定したのかどうかを確認できます。
卒業延期となった場合には、次年度の卒業研究履修資格の有無、卒業見込みの有無が記載されます。

・4年次に卒業要件単位を全て修得でき、卒業が確定した。

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次		
4年次	有	有	卒1		

・今年度、卒業研究履修資格はあったが、卒業要件単位を全て修得できなかったため、卒業延期(留年)が決まった。次年度は、卒業要件単位を全て修得する見込みがあり、卒業研究履修資格については、履修可能は「既有」、修得済みは「済」と記載される。

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	卒見証発行	卒研資格
4年次	無	有	4留	有	既有/済

・今年度の単位修得により、次年度は、卒業研究履修資格を得られ、卒業見込み“有り”の状態になる。

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	卒見証発行	卒研資格
4年次	無	無	4留	有	有

・今年度の単位修得数では、次年度は卒業研究履修資格を得られず、卒業見込みもない。

発表時			次年度		
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	卒見証発行	卒研資格
4年次	無	無	4留	無	無

03 卒業要件単位数（外国人留学生も共通）

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

①4年間（編入生は2年間）以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると4年（編入生は2年）で卒業することができません。

②学科で定められた卒業要件単位124単位以上（編入生は別途定める）を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

❶ 卒業要件単位数

<table>
<tr><td colspan="3">実践教育科目</td><td colspan="2">8単位以上</td><td rowspan="10">124単位以上</td><td rowspan="10">学士（工学）</td></tr>
<tr><td rowspan="9">総合教育科目</td><td rowspan="7">教養教育科目</td><td>教養入門ゼミ</td><td>要件なし</td><td rowspan="8">20単位以上</td></tr>
<tr><td>人文科学</td><td>要件なし</td></tr>
<tr><td>社会科学</td><td>要件なし</td></tr>
<tr><td>自然科学</td><td>要件なし</td></tr>
<tr><td>学際領域</td><td>要件なし</td></tr>
<tr><td>人間教育</td><td>要件なし</td></tr>
<tr><td>日本文化</td><td>（留学生に限る。）8単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">言語文化科目</td><td>英語</td><td>4単位以上 } 8単位以上</td></tr>
<tr><td>初修外国語</td><td></td></tr>
<tr><td>日本語</td><td>（留学生に限る。）8単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">身体科学科目</td><td>要件なし</td></tr>
<tr><td colspan="3">専門教育科目</td><td colspan="2">必修および選択科目の単位をあわせて、88単位以上（自由科目４単位を含む。）</td></tr>
<tr><td colspan="6">4年以上在学</td></tr>
</table>

注）留学生は、教養教育科目分野の日本文化8単位および言語文化科目分野の日本語8単位を必修とする。

23 L入学生

❷ 進級の条件

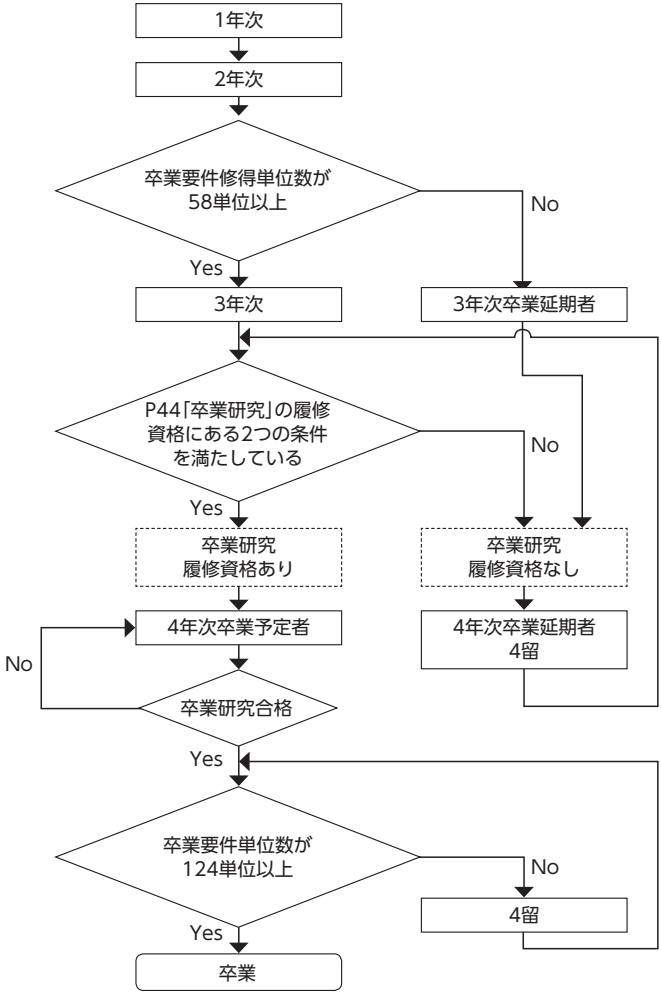
修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、4年間で卒業できなくなります。原則として、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。なお、留学等の理由で休学する場合には、事前に教務課に相談してください。

1年間で最大48単位の履修制限がありますので、計画的に修学してください。

注）3年次終了時に106単位以上の卒業要件単位数が必要です。

1～3年次では、各年40単位の修得を目安としてください。

進級および卒業までの流れ



※卒業延期者においては、前期（半期）科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、
９月期卒業が可能となります。

❸ 卒業要件単位の履修要件

▶実践教育科目（8単位以上）

①必修科目 （卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の履修コースに○印のついた科目です。）
1科目1単位を含む8単位以上を修得してください。

▶総合教育科目（20単位以上）

①必修科目 （卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。）
※留学生のみ
留学生は、総合教育科目分野の日本文化から「日本事情1・2」、「日本の社会と文化1・2」、言語文化科目分野の日本語から「日本語読解1・2」、「日本語作文1・2」、「上級日本語読解1・2」、「上級日本語作文1・2」、計12科目16単位を必ず修得してください。

②選択必修科目 （特定の科目群から指定された単位を修得します。）
言語文化科目分野から、英語4単位以上を含む8単位を修得してください。ただし、留学生は日本語8単位が必修なので、修得しなくてもかまいません。

③選択科目 （必修・選択必修科目以外の中から自由に選んで修得します。）
①②以外に、12単位以上（留学生は4単位以上）を修得してください。なお、選択必修科目の8単位を超えた言語文化科目の単位は選択科目の単位に算入されます。

▶専門教育科目（88単位以上）

①必修科目 （卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の履修コースに○印のついた科目です。）
◆電気電子工学コースおよび電子情報工学コース共に、カリキュラム表の履修コースに○印のついた12科目26単位を必ず修得してください。

【電気電子工学コース】

区分		科目名	単位数
専門教育科目	専門基礎科目	基礎電磁気学１	2
		基礎電磁気学２	2
		電磁気学１	2
		回路の基礎	2
		電気回路１	2
		電気回路２	2
	専門総合科目	電気電子情報基礎演習１	2
		電気電子情報基礎演習２	2
		電気電子情報工学基礎実験	2
		電気電子工学実験	2
		電気電子情報工学ゼミナール	2
	卒業研究	卒業研究	4

【電子情報工学コース】

区分		科目名	単位数
専門教育科目	専門基礎科目	基礎電磁気学 1	2
		回路の基礎	2
		電気回路 1	2
		電気回路 2	2
		論理回路	2
		計算機工学概論	2
	専門総合科目	電気電子情報基礎演習 1	2
		電気電子情報基礎演習 2	2
		電気電子情報工学基礎実験	2
		電子情報工学実験	2
		電気電子情報工学ゼミナール	2
	卒業研究	卒業研究	4

②選択必修科目 （特定の科目群から指定された単位を修得します。）

◆電気電子工学コースおよび電子情報工学コース共に、カリキュラム表の履修コースに□印のついた科目のうち、専門基礎科目分野および専門総合科目分野から12単位以上、専門応用科目分野から20単位以上を修得してください。

③選択科目 （必修科目以外の中から自由に選んで修得します。）

◆電気電子工学コースおよび電子情報工学コース共に、30単位以上を修得してください。

◆②選択必修科目の要件を越えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入されます。

◆カリキュラム表の備考欄に「全員履修科目」とある科目については、卒業までに必ず履修（受講）してください。

◆実践教育科目と総合教育科目と専門教育科目の最低要件単位は合わせて116単位です。卒業要件124単位に不足する8単位については、実践・総合・専門各々の最低要件単位数を超えた単位で補ってください。

04 卒業研究

❶ 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」（4年次配当科目）を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。なお、「電気電子情報工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員で履修します。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

❷ 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

①卒業要件124単位のうち、実践教育科目の卒業要件8単位と総合教育科目の卒業要件20単位を含む106単位以上を修得していること。

②専門必修科目の単位充足に係る要件は、履修コースにより次のとおりとします。

◆電気電子工学コースについては、「回路の基礎」、「電気回路1」、「基礎電磁気学1」、「電気電子情報基礎演習1・2」、「電気電子情報工学基礎実験」を修得しており、「電気電子工学実験」または「電気電子情報工学ゼミナール」のいずれか1科目を修得していること。

◆電子情報工学コースについては、「回路の基礎」、「電気回路1」、「基礎電磁気学1」、「電気電子情報基礎演習1・2」、「電気電子情報工学基礎実験」を修得しており、「電子情報工学実験」または「電気電子情報工学ゼミナール」のいずれか1科目を修得していること。

05 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機（本館1階、クリスタルテラス、梅田サテライトキャンパス）を利用してください。

06 免許・資格について

学科によって、卒業または特定の科目を修得することを条件に資格や免許の取得で優遇されるものがあります。

❶ 電気通信主任技術者

（電気通信国家試験センター）

電気通信主任技術者は、電気通信ネットワークの工事、維持及び運用の監督責任者です。
電気通信事業者は、その事業用電気通信設備を、総務省令で定める技術基準に適合するよう、自主的に維持するために、電気通信主任技術者を選任し、電気通信設備の工事、維持及び運用の監督にあたらなければなりません。

電気通信主任技術者の選任は、原則として、事業用電気通信設備を直接に管理する事業場ごととなります。但し、多数の事業場が地理的にも組織的にも近接している場合は、電気通信主任技術者が一定の範囲内の他の事業場の設備もあわせて監督できることになっております。

電気電子情報工学科は総務省の認定校であり、電気電子情報工学科の学生は「試験の免除を受けるために必要な科目」を履修した場合、在学中であっても電気通信主任技術者科目のうち「電気通信システム」の科目が免除されます。

①電気通信主任技術者の種類

電気通信主任技術者資格者証の種類は、ネットワークを構成する設備に着目して区分されております。

資格者証の種類と監督範囲

伝送交換主任技術者資格者証

電気通信事業の用に供する伝送交換設備及びこれに附属する設備の工事、維持及び運用

線路主任技術者資格者証

電気通信事業の用に供する線路設備及びこれらに附属する設備の工事、維持及び運用

・電気通信主任技術者資格者証は、電気通信主任技術者試験に合格した者等に交付されます。
・電気通信主任技術者試験は、電気通信主任技術者として必要な最低限の専門的知識及び能力について行います。

②電気通信主任技術者資格者証の取得方法

電気通信主任技術者資格者証の取得方法は、次の3通りがあります。

1) 電気通信主任技術者試験（国家試験）に合格すること。
2) 総務省に認定された養成課程において、総務省令で定められた科目を履修すること。
3) 1)、2)に該当する者と同等以上の専門的知識及び能力を有すると総務大臣に認定されること。

③「電気通信システム」試験免除に必要な科目

設定基準の科目区分		本学の科目名称	年次	修得すべき科目
基礎専門教育科目	数学	解析学１	1	２科目以上修得
		解析学２	1	
		解析学３	2	
		代数学１	1	
		代数学２	1	
		代数学３	2	
		数学演習１	1	
		数学演習２	1	
		応用数学１	2	
		応用数学２	3	
		確率と統計	2	
		電気と数学	1	
	物理学	物理学１および演習	1	２科目以上修得
		物理学２	1	
	電磁気学	基礎電磁気学1	1	２科目以上修得
		基礎電磁気学2	2	
		電磁気学１	2	
		電磁気学２	3	
	電気回路	回路の基礎	1	２科目以上修得
		電気回路１	1	
		電気回路２	2	
		線形回路論	2	
	電子回路	基礎電子回路	2	２科目以上修得
		アナログ電子回路	3	
		電子回路設計	3	
		半導体工学	3	
	デジタル回路	論理回路	2	１科目以上修得
		ディジタル回路	3	
		ディジタル信号処理	3	
	情報工学	計算機工学概論	2	１科目以上修得
		ソフトウェア工学	3	
		アルゴリズムとデータ構造	2	
		情報理論	3	
		情報セキュリティ	4	
	電気計測	電気電子計測	2	必ず修得
		計測とセンシング	3	
専門教育科目	伝送路工学	光･電磁波工学	3	必ず修得
	交換工学	情報ネットワーク	3	必ず修得
	電気通信システム	情報通信工学1	2	１科目以上修得
		情報通信工学2	3	
		情報通信機器	4	

④参考

1. 国家試験の受験資格

受験資格は、学歴、年齢、性別、経験などの制限はありません。

2. 試験科目

次の3科目となっております。

・電気通信システム

・設備及び設備管理

・法規

なお、一定の資格又は実務経験を有する場合には、申請により免除される科目があります。

試験科目	伝送交換主任技術者	線路主任技術者
1. 電気通信システム		
(1) 電気通信工学の基礎	○	○
(2) 電気通信システムの大要	○	○
2. 伝送交換設備及び設備管理(伝送交換主任技術者に限る。)		
伝送交換設備の概要並びに当該設備の設備管理、セキュリティ管理及びソフトウェア管理	○	−
3. 線路設備及び設備管理(線路主任技術者に限る。)		
線路設備の概要、当該設備の設備管理、及びセキュリティ管理	−	○
4. 法規		
(1) 電気通信事業法及びこれに基づく命令	○	○
(2) 有線電気通信法及びこれに基づく命令	○	○
(3) 電波法及びこれに基づく命令	○	○
(4) 不正アクセス行為の禁止等に関する法律及びこれに基づく命令	○	○
(5) 電子署名及び認証業務に関する法律及びこれに基づく命令	○	○
(6) 国際電気通信連合憲章及び国際電気通信連合条約の大要	○	○

❷ 電気通信の工事担任者資格

電気通信の工事担任者は、電気通信回線に端末設備又は自営電気通信設備の接続工事を行い、又は、監督する者の資格です。主として、宅内やビル内の通信回線・機器を扱います。

電気電子情報(電子情報通信)工学科は総務省の認定校であり、電気電子情報(電子情報通信)工学科の学生は、「試験の免除を受けるために必要な科目」を修得して卒業した場合、すべての資格者証について試験の科目のうち「電気通信技術の基礎」の科目が免除されます。

①電気通信の工事担任者の種類

工事担任者試験によって得られる資格者証の種類及びこの資格者証を有する者が、自ら工事又は実地で監督することができる端末設備等の接続に係る工事の範囲は、次のとおりです。

資格者証の種類と工事の範囲	
第一級 アナログ通信	アナログ伝送路設備(アナログ信号を入出力する電気通信回線設備をいう。以下同じ。)に端末設備等を接続するための工事及び総合デジタル通信用設備に端末設備等を接続するための工事
第二級 アナログ通信	アナログ伝送路設備に端末設備を接続するための工事(端末設備に収容される電気通信回線の数が1のものに限る。)及び総合デジタル通信用設備に端末設備を接続するための工事(総合デジタル通信回線の数が基本インターフェースで1のものに限る。)
第一級 デジタル通信	デジタル伝送路設備(デジタル信号を入出力とする電気通信回線設備をいう。以下同じ。)に端末設備等を接続するための工事。ただし、総合デジタル通信用設備に端末設備等を接続するための工事を除く。
第二級 デジタル通信	デジタル伝送路設備に端末設備等を接続するための工事(接続点におけるデジタル信号の入出力速度が毎秒1ギガビット以下であって、主としてインターネットに接続するための回線に係るものに限る。)。ただし、総合デジタル通信用設備に端末設備等を接続するための工事を除く。
総合通信	アナログ伝送路設備又はデジタル伝送路設備に端末設備等を接続するための工事。

②「電気通信技術の基礎」試験免除に必要な科目

授業科目	本学の科目名称	年次	修得すべき科目
電気回路	電気回路１	1	２科目以上修得
	電気回路２	2	
	線形回路論	2	
電子回路	基礎電子回路	2	２科目以上修得
	アナログ電子回路	3	
	電子回路設計	3	
	半導体工学	3	
デジタル回路	論理回路	2	１科目以上修得
	ディジタル回路	3	
	ディジタル信号処理	3	
有線電気通信工学	情報通信工学1	2	必ず修得
データ通信工学	情報通信工学2	3	１科目以上修得
	情報ネットワーク	3	
数　　学	解析学１	1	２科目以上修得
	解析学２	1	
	解析学３	2	
	代数学１	1	
	代数学２	1	
	代数学３	2	
	数学演習１	1	
	数学演習２	1	
	応用数学１	2	
	応用数学２	3	
	確率と統計	2	
	電気と数学	2	
物　　理	物理学１および演習	1	必ず修得
	物理学２	1	

❸ 第一級陸上特殊無線技士資格

所定科目の単位を修得して卒業すれば、申請により取得できる資格です。

①第一級陸上特殊無線技士の操作範囲

次のような操作を行うことができます。

・電気通信業務用、公共業務用等の多重無線設備の固定局、基地局等の技術的操作
注…30MHz以上の電波を使用する空中線電力500W以下のものに限ります。

・第二級及び第三級の陸上特殊無線技士の操作の範囲に属するものの操作

②第一級陸上特殊無線技士の資格を取得するために履修する科目

授業科目	本学の科目名称	年次	修得すべき科目
無線機器学その他無線機器に関する科目	情報通信機器	4	必ず修得
電磁波工学その他空中線径及び電磁伝搬に関する科目	光・電磁波工学	3	必ず修得
電子計測その他無線測定に関する科目	電気電子情報工学基礎実験	2	必ず修得
	電気電子工学実験	3	
電波法規その他電波法令に関する科目	電波・通信事業法規	4	必ず修得

❹ 第二級海上特殊無線技士資格

所定科目の単位を修得して卒業すれば、申請により取得できる資格です。

①第二級海上特殊無線技士の操作範囲

次のような操作を行うことができます。

海岸局及び船舶局の次の無線設備の国内通信のための操作
ア）1,605kHz～4,000kHzの電波を使用する空中線電力10W以下のもの
イ）25,010kHz以上の電波を使用する空中線電力50W以下のもの

海岸局及び船舶局のレーダーの操作

②第二級海上特殊無線技士の資格を取得するために履修する科目

授業科目	本学の科目名称	年次	修得すべき科目
無線機器学その他無線機器に関する科目	情報通信機器	4	必ず修得
電磁波工学その他空中線径及び電磁伝搬に関する科目	光・電磁波工学	3	必ず修得
電子計測その他無線測定に関する科目	電気電子情報工学基礎実験	2	必ず修得
	電気電子工学実験	3	
電波法規その他電波法令に関する科目	電波・通信事業法規	4	必ず修得

❺ 1級、2級電気工事施工管理技術検定

電気工事施工管理は電気工事の実施に当たり、その施工計画及び施工図の作成並びに当該工事の工程管理、品質管理、安全管理等工事の施工の管理を適確に行うために必要な技術です。技術検定は、1級、2級ともに第一次検定及び第二次検定によって行われます。当学科は国土交通省令で定める指定学科となっておりますので、履修条件を満たして申請すれば受検資格の電気工事施工管理に関する実務経験年数が短くなり、第1級が「卒業後3年以上」、第2級が「卒業後1年以上」になります。
詳細は、建設業振興基金https://www.fcip-shiken.jp/で確認してください。

<table>
<tr><td>A群</td><td>基礎数学および演習、解析学1、代数学1、
数学演習1、解析学2、代数学2、数学演習2、
解析学3、代数学3、幾何学1、幾何学2、
電気と数学、確率と統計、応用数学1、
応用数学2, 基礎物理学および演習、
物理学1および演習、物理学2、化学1、化学2</td><td>1科目以上履修</td><td rowspan="3">A群・B群・C群から合計18単位以上履修</td></tr>
<tr><td>B群</td><td>基礎電磁気学2、電磁気学1、電磁気学2、
線形回路論、基礎電子回路、アナログ電子回路、
ディジタル回路、電気電子計測、制御工学1、
制御工学2、送配電工学、電気電子材料、
計測とセンシング、電子回路設計、システムと制御</td><td>9単位以上履修</td></tr>
<tr><td>C群</td><td>電子デバイス、発変電工学、電気機器工学、
電気応用工学、パワーエレクトロニクス、
半導体工学、光・電磁波工学、光エレクトロニクス</td><td></td></tr>
</table>

❻ その他

教員免許状

免許の種類	対象学科	取得の要件
高等学校教諭一種免許状（工業）	工学部全学科	それぞれの免許に定められた教職教科専門科目と教職専門科目の修得（詳細は教職ガイダンスで説明します。）
高等学校教諭一種免許状（情報）	電気電子情報工学科（電子情報通信工学科）	
高等学校教諭一種免許状（数学）		
中学校教諭一種免許状（数学）		

所定の単位修得により受験資格が得られる資格

資格の種類	認定の内容	対象学科・コース	取得の要件
社会保険労務士	受験資格	全学科	卒業要件に必要とする62単位以上修得

本学で申し込める技能講習

資格の種類	対象学科	取得の要件・その他
ガス溶接技能者	全学科	学外で講習を実施 ※詳細・申込は資格サポートセンターへ

07 飛び級制度

大学院へ進む場合、大学を卒業してから大学院へ入学するのが一般的ですが、特に優秀な学生で、大学に3年以上在学し、かつ研究者として優れた資質を有する者に早期から大学院教育を実施する道をひらくのが飛び級制度です。

この制度を適用する場合、以下の「大学院学則」および「大学院学則の適用基準に関する工学研究科内規」に基づき実施されます。

この規程により大学院への入学資格を認められると、大学と大学院の両方に在籍することはできませんので、合格者はすみやかに在籍する大学の退学手続きをとり、大学院入学手続きをしてください。詳細についての問い合わせは、教務課に相談してください。

なお、種々の国家試験等の受験資格では、大学の学部卒業を要件としているものがあります。その場合は、不利となることを承知しておく必要があります。

参　考

▶飛び級入学資格

平成18年4月以降に工学部に入学した学生が飛び級での大学院入学資格を得るためには、以下の条件を全て満たしてください。

①本学工学部に1年次より在学

②4年次配当の必修科目を除く卒業要件単位を全て修得、かつ124単位以上修得

③全修得科目の平均点が88点以上

④当該学科で推薦

08 大学院工学研究科授業科目早期履修制度

大学院授業科目早期履修とは、大学院で学ぶことの目的意識を高め研究課題を見出す機会として、本学大学院工学研究科への進学を希望する本学学部の4年次生を対象に、大学院の授業を履修できる制度です。

この制度を活用すれば、計画的に大学院進学の準備を整えつつ、早期に専門分野の攻究と研究課題の探求に繋げることも可能となります。

なお、この制度には、3年次終了時に一定の成績を修めること等の条件がありますので、詳しくは所属学科および進学を希望する大学院（専攻）の先生あるいは大学院事務室に問い合わせてください。

09 カリキュラム

開講時期については、前期と後期が替わることがありますので、時間割を確認してください。

❶ 実践教育科目

（各履修コースの○印は必修科目）

区分	科目	単位	履修コース 電子情報工学コース・電気電子工学コース	卒業資格 最低単位数	週時間数 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
実践教育科目	電気電子情報工学入門	1		必修1・選択7以上 合計8以上	2								全員履修
	学習リテラシー	1			2								全員履修
	電気電子情報創造演習	1	○		2								
	コンピュータリテラシー	2			2								全員履修
	テクニカルライティング1	1			2								※1全員履修
	テクニカルライティング2	1				2							※1全員履修
	キャリアプランニング	2					2						全員履修
	キャリアデザイン1	1						2					
	キャリアデザイン2	1							2				
	インターンシップ	2							2				※2（集中）
	実践特別科目	2								2			単位認定科目
小計		15	15	8以上	10	2	2	2	4	2	0	0	

※1　テクニカルライティング1・2の全員履修は留学生に対して適用しない。
※2　インターンシップは通年集中科目

週時間数欄の数字は、2=週1コマ、4=週2コマの授業があることを示します。1年次には1年次の、2年次には1、2年次の、3年次には1、2、3年次の、4年次には1、2、3、4年次の欄に数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

❷ 総合教育科目

（単位数を○でかこんだものは必修科目）

区分			科目	単位	卒業資格最低単位数	週時間数 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
総合教育科目	教養教育科目		教養入門ゼミ	2	20以上	2								
		人文科学	文学	2		2								
			哲学	2		2								
			論理学	2		2								
			地理学	2			2							
			社会思想史	2		2								
		社会科学	日本国憲法	2			2							
			現代の政治	2			2							
			経済学の基礎	2			2							
			近代史	2			2							
			心理学	2		2								
		自然科学	物質科学	2		2								
			宇宙科学	2		2								
			環境科学	2		2								
			生命科学	2		2								
			現代数学入門	2		2								
		学際領域	平和学	2		2	(2)							
			時事問題	2			2							
			外国の社会と文化	2			2							
			倫理学（工業倫理を含む）	2			2							
			科学技術史	2			2							
		日本文化	日本事情1	②		2								留学生向け科目
			日本事情2	②			2							留学生向け科目
			日本の社会と文化1	②		2								留学生向け科目
			日本の社会と文化2	②			2							留学生向け科目
		人間教育	教育原理	2			2							教職課程科目
			教育心理学	2		2								教職課程科目
			道徳教育の理論と方法	2					2					教職課程科目
			人権教育	2					2					教職課程科目
			生涯学習論	2				2						教職課程科目

区分			科目	単位	卒業資格 最低単位数			週時間数 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
総合教育科目	言語文化科目	英語	英語(Listening&Speaking)1	1	4以上	8以上	(20以上)	2								
			英語(Listening&Speaking)2	1					2							
			英語(Listening&Speaking)3	1						2						
			英語(Listening&Speaking)4	1							2					
			TOEIC上級(Listening)1	1						2						
			TOEIC上級(Listening)2	1							2					
			英語(Reading&Writing)1	1				2								
			英語(Reading&Writing)2	1					2							
			英語(Reading&Writing)3	1						2						
			英語(Reading&Writing)4	1							2					
			TOEIC上級(Reading)1	1						2						
			TOEIC上級(Reading)2	1							2					
			英語総合(上級)1	1								2				
			英語総合(上級)2	1									2			
			英語海外研修	2						2	2					(集中)
		初修外国語	初修外国語入門1	1				2								
			初修外国語入門2	1					2							
			初修外国語初級1	1						2						
			初修外国語初級2	1							2					
			初修外国語総合1	1								2				
			初修外国語総合2	1									2			
			初修外国語海外研修	2						2	2					(集中)
		日本語	日本語読解1	①				2								留学生向け科目
			日本語読解2	①					2							留学生向け科目
			日本語作文1	①				2								留学生向け科目
			日本語作文2	①					2							留学生向け科目
			上級日本語読解1	①						2						留学生向け科目
			上級日本語読解2	①							2					留学生向け科目
			上級日本語作文1	①						2						留学生向け科目
			上級日本語作文2	①							2					留学生向け科目
	身体科学科目		スポーツ科学実習1	1				2								
			スポーツ科学実習2	1					2							
			スポーツ科学	2						2						
			運動科学	2							2					
	小計			98	20以上			42	36	22	24	4	4	0	0	

23L入学生

注）総合教育科目の履修要件

イ　1年次配当の英語については、プレイスメントテストを実施し、その結果に基づいて、習熟度別にクラスを分ける。
　　ただし、英語の2年次および3年次配当科目については、この限りではない。

ロ　英語は「4単位以上」必修であるが、この規定は留学生には適用しない。

ハ　初修外国語はドイツ語、フランス語、中国語から構成され、複数の言語を卒業要件単位に算入することも可能とする。
　　ただし、各言語は、必ず「入門1」から履修しなければならない。

ニ　留学生は、日本文化の4科目8単位および日本語の8科目8単位を必修とする。
　　なお、留学生は、言語文化科目として母語を履修することはできない。

ホ　留学生には英語のプレイスメントテストを実施しない。

❸ 専門教育科目

（各履修コースの○印は必修科目、□印は選択必修科目、－印はコースによって履修できない科目を表す。）

区分			科目	単位	卒業資格最低単位数 電気電子工学コース		卒業資格最低単位数 電子情報工学コース		週時間数 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	基礎数学および演習	4		電気電子工学コース 必修26・選択必修32以上 選択30以上 合計88以上		電子情報工学コース 必修26・選択必修32以上 選択30以上 合計88以上	6									●
			解析学1	2					2	(2)							全員履修	●◎
			代数学1	2					2	(2)							全員履修	●◎
			数学演習1	1					2	(2)							全員履修	●◎
			解析学2	2						2	(2)						全員履修	●◎
			代数学2	2						2	(2)						全員履修	●◎
			数学演習2	1						2	(2)						全員履修	●◎
			解析学3	2							2							◎
			代数学3	2							2							◎
			幾何学1	2							2							
			幾何学2	2								2						
			電気と数学	2	□		□			2							全員履修	
			確率と統計	2	□		□				2							
			応用数学1	2	□		□					2						
			応用数学2	2	□		□						2					
			基礎物理学および演習	2					4									▲
			物理学1および演習	2					4	(4)							全員履修	▲△
			物理学2	2						2							#全員履修	△
			化学1	2					4								全員履修	
			化学2	2						2							全員履修	
			基礎電磁気学1	2	○		○			2	(2)							★
			基礎電磁気学2	2	○		□				2	(2)						★
			電磁気学1	2	○		□					2						
			電磁気学2	2									2					
			回路の基礎	2	○		○		2	(2)								★
			電気回路1	2	○		○			2	(2)							★
			電気回路2	2	○		○				2							
			線形回路論	2								2						
			基礎電子回路	2	□		□					2					全員履修	
			アナログ電子回路	2	□		□						2					
			論理回路	2	□		○					2						
			ディジタル回路	2	□		□						2					
			電子デバイス	2	□		□				2							
			電気電子計測	2	□		□				2						全員履修	
			制御工学1	2								2						
			制御工学2	2									2					
			計算機工学概論	2	□		○				2							
			基礎プログラミング1	2	□		□			2								
			基礎プログラミング2	2							2							
			応用プログラミング	2								2						

[備考欄] #全員履修：「基礎物理学および演習」を履修しなかった者のみ適用。

（履修コースの○印は必修科目、□印は選択必修科目、−印はコースによって履修できない科目を表す。）

区分			科目	単位	卒業資格最低単位数 電気電子工学コース		卒業資格最低単位数 電子情報工学コース		週時間数 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
専門教育科目	専門応用科目	電気電子工学科目	発変電工学	2	□	（電気電子工学コース 必修26・選択必修32以上 選択30以上 合計88以上） 20以上		（電子情報工学コース 必修26・選択必修32以上 選択30以上 合計88以上） 20以上				2					指定先行履修有
			送配電工学	2	□								2				指定先行履修有
			電気機器工学	2	□									2			指定先行履修有
			電気応用工学	2	□									2			指定先行履修有
			パワーエレクトロニクス	2	□										2		
			電子物性論	2	□							2					
			電気電子材料	2	□								2				
			半導体工学	2	□									2			
			計測とセンシング	2	□		□						2				
			電子回路設計	2	□		□							2			
			光・電磁波工学	2	□		□							2			
			光エレクトロニクス	2	□		□								2		
		電子情報工学科目	情報通信工学1	2	□		□					2					
			システムと制御	2	□		□							2			
			情報通信機器	2	□		□								2		
			ディジタル信号処理	2	□		□							2			
			アルゴリズムとデータ構造	2			□					2					
			情報理論	2			□						2				
			ソフトウェア工学	2			□							2			
			情報セキュリティ	2			□								2		
			情報通信工学2	2			□						2				
			情報ネットワーク	2			□							2			
			組込システム	2			□							2			指定先行履修有
			情報メディア工学	2			□							2			

23 L入学生

（各履修コースの○印は必修科目、□印は選択必修科目、－印はコースによって履修できない科目を表す。）

区分		科目	単位	卒業資格最低単位数 電気電子工学コース		卒業資格最低単位数 電子情報工学コース		週時間数 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
専門教育科目	専門総合科目	電気電子情報基礎演習1	2	○	選択必修 32以上	○	選択必修 32以上		4							履修制限有 (集中)
		電気電子情報基礎演習2	2	○		○				2						
		電気電子情報工学基礎実験	2	○		○					4					
		電気電子工学実験	2	○		□						4				
		電子情報工学実験	2	□		○						4				
		電気電子情報工学ゼミナール	2	○		○							4			
		電気設備工学特別講義	2			—				2						
		電気電子工学特別講義	2			—						2				
		電力工学特別講義	2			—							2			
		産業財産権	2									2				
		電波・通信事業法規	2											2		
	卒業研究	卒業研究	4	○		○								8	8	
	小計		154	154	88以上	148	88以上	26	22	24	28	32	28	18	8	
実践教育科目、総合教育科目、専門教育科目 合計			267	267	124	261	124	78	60	48	54	40	34	18	8	

注）Ⅰ. 専門教育科目の履修要件

イ　卒業要件単位は、必修科目26単位、選択必修科目32単位および選択科目30単位以上、合計88単位以上とする。

ロ　専門基礎科目分野（共通科目）および専門総合科目の選択必修科目（13科目26単位）の中から、12単位以上を修得すること。

ハ　専門応用科目分野の選択必修科目は、20単位以上を修得すること。

ニ　ロおよびハの選択必修科目の卒業資格最低単位数を越えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入する。

ホ　「電気電子情報工学ゼミナール」を履修するためには、3年次前期履修登録時に卒業要件単位を58単位以上修得していなければならない。

ヘ　各分野において定められた最低要件単位数を超えて修得した単位は、選択科目として卒業要件単位に算入することができる。

ト　備考欄中の表記

(1)●と◎は、数学プレイスメントテストの結果によって履修の順序が指定される科目

（●の場合）「基礎数学および演習」→「解析学1」「代数学1」「数学演習1」→「解析学2」「代数学2」「数学演習2」

（◎の場合）「解析学1」「代数学1」「数学演習1」→「解析学2」「代数学2」「数学演習2」→「解析学3」「代数学3」

(2)●の科目を履修する者は、「解析学3」「代数学3」を履修することはできない。

(3)◎の科目を履修する者は、「基礎数学および演習」を履修することはできない。

(4)▲と△は、物理プレイスメントテストの結果によって履修の順序が指定される科目

（▲の場合）「基礎物理学および演習」→「物理学1および演習」

（△の場合）「物理学1および演習」→「物理学2」

(5)△の科目を履修する者は、「基礎物理学および演習」を履修することはできない。

(6)全員履修科目は、必ず履修しなければならない科目（必修科目ではない）であり、原則として、習熟度別で複数のクラス編成をおこなう。

(7)指定先行科目

「発変電工学」「送配電工学」「電気機器工学」および「電気応用工学」を履修するためには、「回路の基礎」「電気回路1」および「基礎電磁気学1」をあらかじめ修得していなければならない。「組込システム」を履修するためには、「基礎プログラミング1」および「基礎プログラミング2」をあらかじめ修得していないければならない。

(8)★は、前期に修得できなかった者が、後期に履修申請の変更により、履修できる科目

Ⅱ. 電気電子工学コースと電子情報工学コースのコース選択について

・1年次学年末に電気電子工学コースと電子情報工学コースのうちいずれかを選択する。2年次以降は所属するコースの履修要件に従って履修申請を行う。

・選択したコースによって、①必修科目および選択必修科目と②3年次後期からの「電気電子情報工学ゼミナール」の研究室配属先が変わってくる。選択したコースは、2年次終了時にも変更することは可能であるが、必修科目・選択必修科目の履修のやり直しが必要になる可能性がある。

・なお、コース選択において、コース間に希望人数の大きな偏りが生じた際には、実験等の講義を適切に運用するため、コースへの配属に関して学科にて成績（GPA）に基づいて調整する場合がある。

Ⅲ. コース変更

コース変更は学科で承認された場合にのみ認めるものとし、変更時期は3年次までの毎学年始めの履修申請時とする。コース変更により、在学年次に変更は生じない。なお変更は、在学中で1回限りとする。

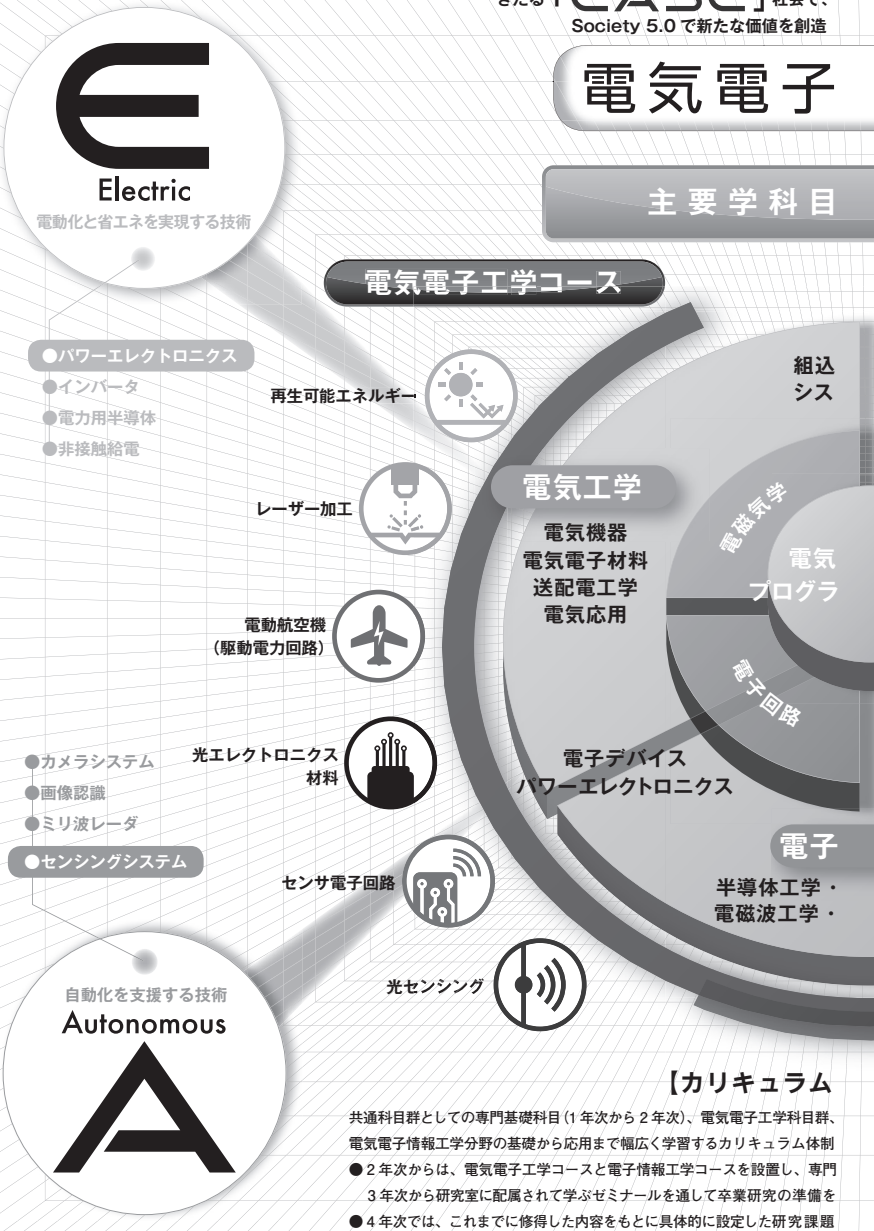
◆コース変更後の所属コースでの履修要件について

コース変更後、直ちに所属コースの履修要件が課せられる。

きたる「CASE」社会で、
Society 5.0 で新たな価値を創造

電気電子

主要学科目



【カリキュラム

共通科目群としての専門基礎科目（1年次から2年次）、電気電子工学科目群、電気電子情報工学分野の基礎から応用まで幅広く学習するカリキュラム体制

- 2年次からは、電気電子工学コースと電子情報工学コースを設置し、専門3年次から研究室に配属されて学ぶゼミナールを通して卒業研究の準備を
- 4年次では、これまでに修得した内容をもとに具体的に設定した研究課題問題を解決できる技術者の育成を目指します。

グローバルに活躍できるエンジニアを育成します。
し続ける知識と技術を身につけます。

情報工学科

と研究分野

電子情報工学コース

システム
テム制御

アルゴリズム

回路
ミング

計算機工学

情報工学

情報理論
ソフトウェア工学
情報ネットワーク
情報セキュリティ

情報メディア
ディジタル信号処理

工学

電子回路設計
光エレクトロニクス

通信ネットワーク

符号・暗号理論

AI・知識情報処理

データマイニング・機械学習

ドローン
（遠隔制御・通信）

福祉情報機器

光記録メディア

Connected
つながりを支える技術

ネットワークシステム●
通信システム●
衛星測位システム●
アンテナ●

IoT●
情報セキュリティ●
データマイニング●
AI・ビッグデータ●

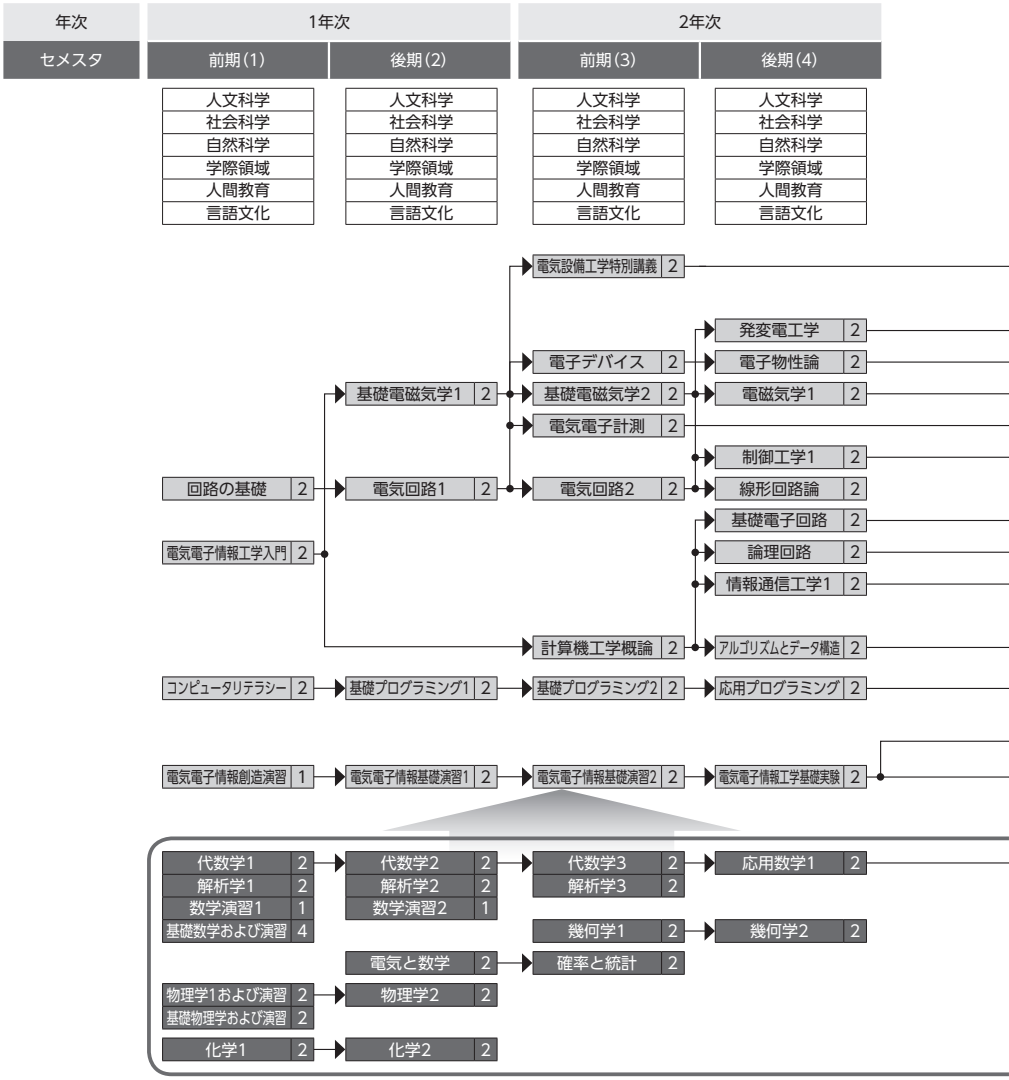
情報を活用する技術
Shared & Services

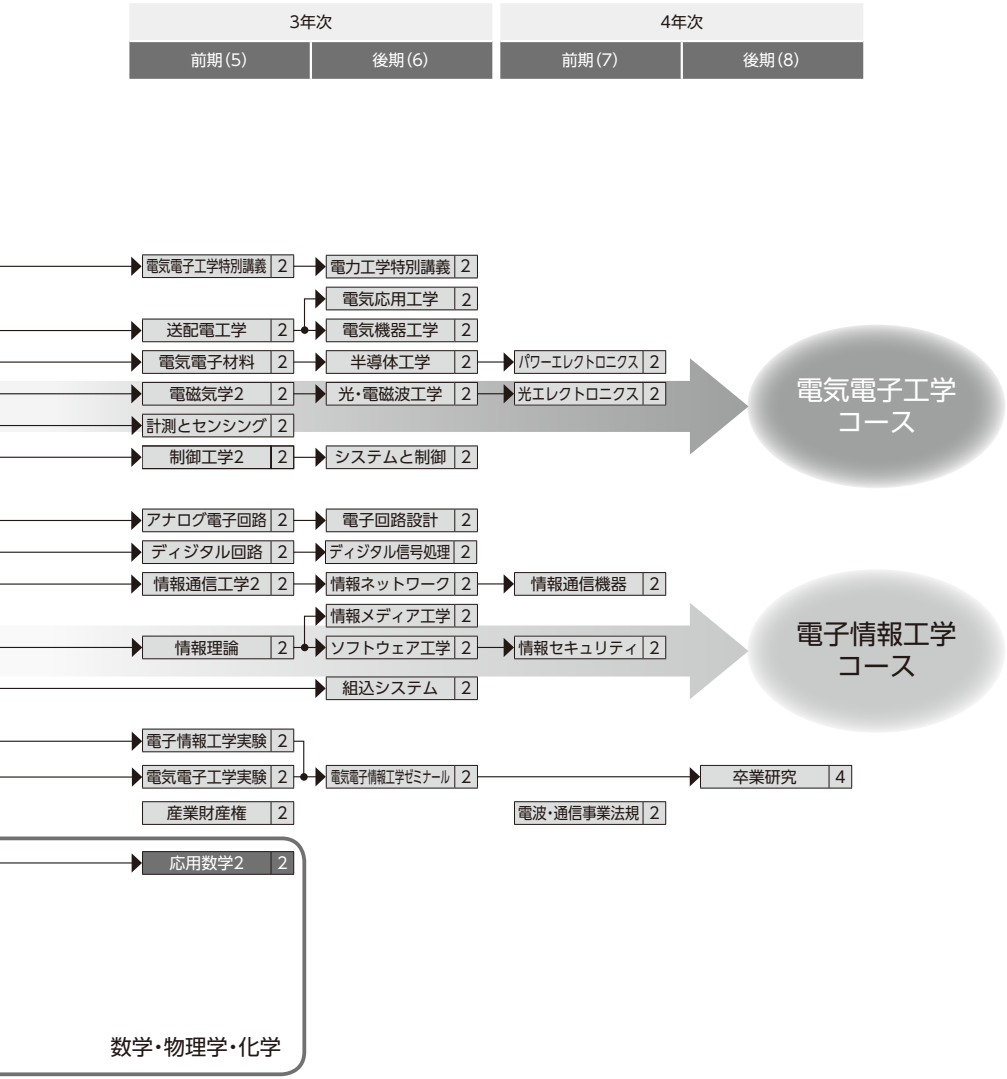
・ポリシー】

電子情報工学科目群としての専門応用科目（2 年次以降）を置き、
としています。
応用科目群で各分野を体系的に学ぶと共に、
します。
に対する答えを自ら模索し探究する卒業研究を通して、

カリキュラム

23
L
入学生


年次
1年次
2年次
セメスタ
前期(1)
後期(2)
前期(3)
後期(4)
人文科学
社会科学
自然科学
学際領域
人間教育
言語文化
電気設備工学特別講義 2
発変電工学 2
電子デバイス 2
電子物性論 2
基礎電磁気学1 2
基礎電磁気学2 2
電磁気学1 2
電気電子計測 2
制御工学1 2
回路の基礎 2
電気回路1 2
電気回路2 2
線形回路論 2
基礎電子回路 2
電気電子情報工学入門 2
論理回路 2
情報通信工学1 2
計算機工学概論 2
アルゴリズムとデータ構造 2
コンピュータリテラシー 2
基礎プログラミング1 2
基礎プログラミング2 2
応用プログラミング 2
電気電子情報創造演習 1
電気電子情報基礎演習1 2
電気電子情報基礎演習2 2
電気電子情報工学基礎実験 2
代数学1 2
解析学1 2
数学演習1 1
基礎数学および演習 4
代数学2 2
解析学2 2
数学演習2 1
代数学3 2
解析学3 2
応用数学1 2
幾何学1 2
幾何学2 2
電気と数学 2
確率と統計 2
物理学1および演習 2
基礎物理学および演習 2
物理学2 2
化学1 2
化学2 2


3年次
4年次
前期(5)
後期(6)
前期(7)
後期(8)
電気電子工学特別講義 2
電力工学特別講義 2
電気応用工学 2
送配電工学 2
電気機器工学 2
電気電子材料 2
半導体工学 2
パワーエレクトロニクス 2
電磁気学2 2
光・電磁波工学 2
光エレクトロニクス 2
計測とセンシング 2
制御工学2 2
システムと制御 2
電気電子工学コース
アナログ電子回路 2
電子回路設計 2
ディジタル回路 2
ディジタル信号処理 2
情報通信工学2 2
情報ネットワーク 2
情報通信機器 2
情報メディア工学 2
情報理論 2
ソフトウェア工学 2
情報セキュリティ 2
組込システム 2
電子情報工学コース
電子情報工学実験 2
電気電子工学実験 2
電気電子情報工学ゼミナール 2
卒業研究 4
産業財産権 2
電波・通信事業法規 2
応用数学2 2
数学・物理学・化学

Chapter 03

（電子情報通信工学科）
21L 編入生

01 卒業要件単位数 …… 69
02 卒業研究 …… 71
03 卒業見込証明書 …… 71
04 カリキュラム …… 72

01 卒業要件単位数

❶ 卒業要件単位数

編入生の卒業要件単位数は、次のとおりです。

高等教育課程を修了し、かつ、電子情報通信工学科が定める学力基準を満たしていると認めた者

専門教育科目	必修科目	8単位	62単位	学士（工学）
	選択必修科目	12単位		
	選択科目（自由科目4単位を含む。）	42単位		
2年以上在学				

▶総合教育科目（総合教育科目は全て卒業要件単位に入りません。）

▶専門教育科目（62単位）

①必修科目 （卒業するまでに必ず修得します。カリキュラム表の履修コースに○印のついた科目です。）

【電気電子工学コース】

「電気電子工学実験」、「電気電子情報工学ゼミナール」、「卒業研究」の3科目8単位を必ず修得してください。「電気電子情報工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員で履修します。

【電子情報工学コース】

「電子情報工学実験」、「電気電子情報工学ゼミナール」、「卒業研究」の3科目8単位を必ず修得してください。「電気電子情報工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員で履修します。

②選択必修科目 （特定の科目群から指定された単位を修得します。）

【電気電子工学コース】

電気電子工学科目および「情報通信工学1」、「システムと制御」、「情報通信機器」、「ディジタル信号処理」から12単位以上を修得してください。

【電子情報工学コース】

電子情報工学科目および「計測とセンシング」、「電子回路設計」、「光・電磁波工学」、「光エレクトロニクス」から12単位以上を修得してください。

③選択科目 （必修科目以外の中から自由に選んで修得します。）

①②以外に42単位を修得してください。1年次配当の専門教育科目は修得しても卒業要件単位に入りません。また、「基礎数学および演習」は履修することができません。

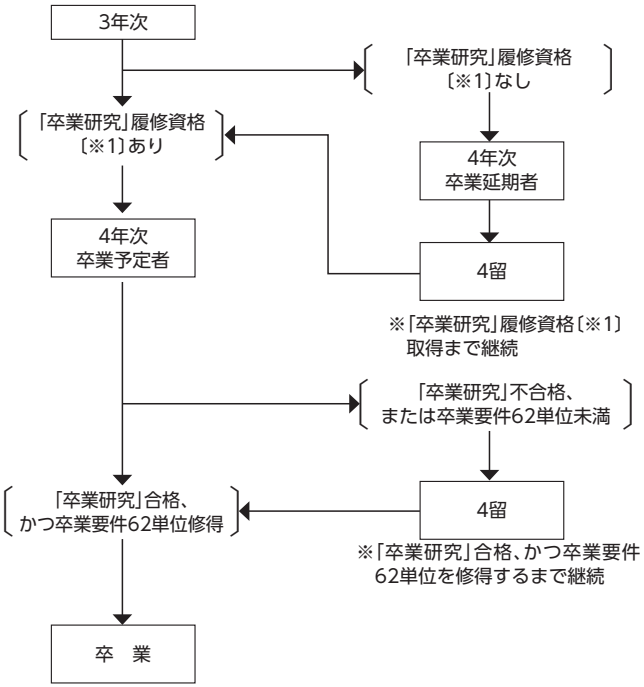
②選択必修科目の要件を越えて修得した単位数は、選択科目の単位数に算入されます。

❷ 進級の条件

編入生は、1年間に最大48単位まで履修申請できます。修得単位数にかかわらず、4年次まで進級できますが、3年次修了時点で卒業研究履修資格の条件を満たしていなければ、2年間で卒業できなくなります。

また、進級するためには、1年を通じて在学していなければなりません。

進級および卒業までの流れ



※1
①卒業要件単位36単位以上修得
　かつ
②電気電子工学コース：「電気電子工学実験」「電気電子情報工学ゼミナール」のうち1科目以上修得
　電子情報工学コース：「電子情報工学実験」「電気電子情報工学ゼミナール」のうち１科目以上修得

※卒業延期者においては、前期（半期）科目で卒業要件単位を修得した場合に限り、9月期卒業が可能となります。

02 卒業研究

❶ 卒業研究

卒業するためには、「卒業研究」（4年次配当科目）を修得しなければなりません。「卒業研究」を履修するためには、3年次修了までに履修資格を得ることが必要です。なお、「電気電子情報工学ゼミナール」と「卒業研究」は、原則同一教員で履修します。

「卒業研究」の履修についての質問や相談がある場合は、Web履修申請する前に教務課に相談してください。また、卒業予定者で、時間割上卒業要件単位数を満たす履修申請ができない場合も、教務課窓口で相談してください。

❷ 「卒業研究」の履修資格

「卒業研究」を履修するためには、次の2つの条件を満たさなければなりません。

①卒業要件単位36単位以上を修得していること。

②電気電子工学コース：「電気電子工学実験」「電気電子情報工学ゼミナール」のうち1科目以上修得していること。

電子情報工学コース：「電子情報工学実験」「電気電子情報工学ゼミナール」のうち1科目以上修得していること。

03 卒業見込証明書

「卒業研究」の履修資格を得た学生は、同時に卒業予定者となり、4年次になった4月から卒業見込証明書の交付を受けることができます。

※卒業見込証明書は、就職活動のために訪れる企業などに提出するものです。必要な人は、証明書自動発行機（本館1階、クリスタルテラス、梅田サテライトキャンパス）を利用してください。

04 カリキュラム

開講時期については、前期と後期が替わることがありますので、時間割を確認してください。

専門教育科目

（各履修コースの○印は必修科目、□印は選択必修科目、−印はコースによって履修できない科目を表す。）

区分			科目	単位	履修コース		最低単位数	週時間数								備考
					電気電子工学コース	電子情報工学コース	卒業資格	1年次		2年次		3年次		4年次		
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門教育科目	専門基礎科目	共通科目	基礎数学および演習	4	−	−	（必修8・選択必修12・選択42 合計62）	6								**
			解析学1	2				2	(2)							*
			代数学1	2				2	(2)							*
			数学演習1	1				2	(2)							*
			解析学2	2					2	(2)						*
			代数学2	2					2	(2)						*
			数学演習2	1					2	(2)						*
			解析学3	2						2						
			代数学3	2						2						
			幾何学1	2						2						
			幾何学2	2							2					
			電気と数学	2					2							*
			確率と統計	2						2						
			応用数学1	2							2					
			応用数学2	2								2				
			基礎物理学および演習	2				4								*
			物理学1および演習	2				4	(4)							*
			物理学2	2					2							*
			物理学実験	2	−	−		(4)	4							**
			化学1	2				4								*
			化学2	2					2							*
			化学実験	2	−	−		4	(4)							**
			基礎電磁気学1	2					2	(2)						*
			基礎電磁気学2	2						2	(2)					
			電磁気学1	2							2					
			電磁気学2	2								2				
			回路の基礎	2				2	(2)							*
			電気回路1	2					2	(2)						*
			電気回路2	2						2						
			線形回路論	2							2					
			基礎電子回路	2							2					
			アナログ電子回路	2								2				
			論理回路	2							2					
			ディジタル回路	2								2				
			電子デバイス	2						2						
			電気電子計測	2						2						
			制御工学1	2							2					
			制御工学2	2								2				
			計算機工学概論	2						2						
			基礎プログラミング1	2					2							*
			基礎プログラミング2	2						2						
			応用プログラミング	2							2					

※備考欄に*印のある科目は修得しても卒業要件単位に入りません。
備考欄に**印のあるものは履修できません。

21L編入生

区分			科目	単位	卒業資格最低単位数 電気電子工学コース			卒業資格最低単位数 電子情報工学コース			週時間数 1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	備考
専門教育科目	専門基礎科目	電気電子工学科目	発変電工学	2	□	12以上	（必修8・選択必修12・選択42 合計62）	□	12以上	（必修8・選択必修12・選択42 合計62）				2					
			送配電工学	2	□			□							2				
			電気機器工学	2	□			□								2			
			電気応用工学	2	□			□								2			
			パワーエレクトロニクス	2	□			□									2		
			電子物性論	2	□			□						2					
			電気電子材料	2	□			□							2				
			半導体工学	2	□			□								2			
			計測とセンシング	2	□			□							2				
			電子回路設計	2	□			□								2			
			光・電磁波工学	2	□			□								2			
			光エレクトロニクス	2	□			□									2		
		電子情報工学科目	情報通信工学1	2	□			□						2					
			システムと制御	2	□			□								2			
			情報通信機器	2	□			□									2		
			ディジタル信号処理	2	□			□								2			
			アルゴリズムとデータ構造	2				□						2					
			情報理論	2				□							2				
			ソフトウェア工学	2				□								2			
			情報セキュリティ	2				□									2		
			情報通信工学2	2				□							2				
			情報ネットワーク	2				□								2			
			組込システム	2				□								2			
			情報メディア工学	2				□								2			
	専門総合科目		電気電子情報基礎演習1	2								4							*
			電気電子情報基礎演習2	2									2						
			電気電子情報工学基礎実験	2										4					
			電気電子工学実験	2	○										4				
			電子情報工学実験	2				○							4				
			電気電子情報工学ゼミナール	2	○			○								4			
			産業財産権	2											2				
			電波・通信事業法規	2													2		
	卒業研究		卒業研究	4	○			○									8	8	

参考欄に*印のある科目は修得しても卒業要件単位に入りません。
参考欄に**印のある科目は履修できません。

（工学部修学規程）

(1) 卒業要件単位は、専門教育科目から62単位とする。
(2) 1年次配当のすべての専門教育科目については、必修科目を含め、修得した単位を卒業要件単位に算入することができない。
(3) 2年次配当の必修科目「電気電子情報基礎演習2」および「電気電子情報工学基礎実験」については、選択科目として取り扱う。
(4) 専門基礎科目の「基礎数学および演習」については、履修することができない。なお、プレイスメントテストは、すべて実施しない。
(5) 専門応用科目について、電気電子工学コースは電気電子工学科目および「情報通信工学1」「システムと制御」、「情報通信機器」、「ディジタル信号処理」から12単位以上、電子情報工学コースは電子情報工学科目および「計測とセンシング」、「電子回路設計」、「光・電磁波工学」、「光エレクトロニクス」から12単位以上を修得することとする。
(6) 自由科目の卒業要件単位への組み入れについては、専門教育科目の選択科目として取り扱い、上限を4単位とする。

大阪産業大学
OSAKA SANGYO UNIVERSITY